corega BAR SW-4P HG
corega BAR HGWL

取扱説明書

準備・ルーター設定編

ワイヤレス機能の設定については、『ワイヤレス設定編』をお読みください。

STEP1 まず準備が必要 1
STEP2 ネットワークに接続だ 2
STEP3 トラブルや疑問があったら 3
STEP4 設定ユーティリティーを見てみよう 4
STEP5 こんなときにはこの設定 5
STEP6 付録 6

http://www.corega.co.jp/

PN J613-M7246-00 Rev.B 02906

安全にお使いいただくために　必ずお守りください

本書では、製品を安全にお使いいただくための注意事項を次のように記載しています。

注意事項を守っていただけない場合、どの程度の影響があるかを表しています。

⚠警告	人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。

注意事項を守っていただけない場合、発生が想定される障害または事故の内容を表しています。

	感電の可能性が想定されることを示します。		発煙または発火の可能性が想定されることを示します。
	けがを負う可能性が想定されることを示します。		

障害や事故の発生を防止するための、その他の注意事項は次のマークで表しています。

	電源プラグを抜く 電源ケーブルのプラグを抜くように指示するものです。

⚠警告

分解や改造をしない

本製品は、取扱説明書に記載のない分解や改造はしないでください。
火災や感電、けがの原因となります。

雷のときはケーブル類・機器類にさわらない

感電の原因となります。

設置・移動のときは電源プラグを抜く

感電の原因となります。

異物は入れない　水は禁物

火災や感電の恐れがあります。水や異物を入れないように注意してください。万一水や異物が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。（当社のサポートセンターまたは販売店にご連絡ください。）

湿気やほこりの多いところ、油煙や湯気のあたる場所には置かない

内部回路のショートの原因になり、火災や感電の恐れがあります。

交流 100V の電源でお使いください

異なる電源電圧で使用すると、火災や感電の原因となります。

添付の専用 AC アダプター以外で使用しない

火災や感電の原因となります。必ず、添付の専用 AC アダプターを使用してください。

専用 AC アダプターのコードを傷つけない

火災や感電の原因となります。

電源コンセントや配線器具の定格を超える使い方はしない

たこ足配線などで定格を超えると発熱による火災の原因となります。

ご使用にあたってのお願い

次のような場所での使用や保管はしないでください。

・直射日光の当たる場所
・暖房器具の近くなどの高温になる場所
・急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
・湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所（湿度 80%以下の環境でご使用ください）
・振動の激しい場所
・ほこりの多い場所や、ジュータンを敷いた場所（静電気障害の原因になります）
・腐食性ガスの発生する場所

静電気注意

本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊する恐れがありますので、コネクターの接点部分、ポート、部品などに素手で触れないでください。

取り扱いはていねいに

落としたり、ぶつけたり、強いショックを与えないでください。

お手入れについて

清掃するときは電源を切った状態で

誤動作の原因になります。

機器は、乾いた柔らかい布で拭く

汚れがひどい場合は、柔らかい布に薄めた台所用洗剤（中性）をしみこませ、堅く絞ったものでふき、乾いた柔らかい布で仕上げてください。

お手入れには次のものは使わないでください

・石油・みがき粉・シンナー・ベンジン・ワックス・熱湯・粉せっけん（化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書に従ってください）。

電波に関する注意（corega BAR HGWL をお使いの方へ）

本製品を下記のような状況でご使用になることはおやめください。
また設置の前に、「安全にお使いいただくために」を必ずお読みください。

- 心臓ペースメーカーをご使用の近くで、本製品をご使用にならないでください。
  心臓ペースメーカーに電磁妨害を及ぼし、生命の危険があります。
- 医療機器の近くで、本製品をご使用にならないでください。
  医療機器に電磁妨害を及ぼし、生命の危険があります。
- 電子レンジの近くで、本製品をご使用にならないでください。
  電子レンジによって、本製品の無線通信への電磁妨害が発生します。

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、工場の製造ラインで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。

1 この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
2 万が一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、本製品の周波数を変更して、混信を回避してください。
3 その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスＢ情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

はじめに

このたびは、「corega BAR SW-4P HG」または「corega BAR HGWL」をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。本書は、本製品を正しくご利用していただくための手引きです。必要なときにいつでも参照していただけるように、大切に保管してください。

メモ　本製品は「corega BAR SW-4P HG」「corega BAR HGWL」共通の取扱説明書です。「corega BAR HGWL」には、ワイヤレス機能について説明した別冊『ワイヤレス設定編』も添付しています。「corega BAR HGWL」でワイヤレス機能を使う場合は、『ワイヤレス設定編』を参照してください。

「corega BAR SW-4P HG」「corega BAR HGWL」に関する最新情報（ファームウェアのバージョンアップ情報など）は、弊社のホームページでお知らせします。

コレガのホームページ　http://www.corega.co.jp/

本書の読み方

本書で使用している記号や表記には、次のような意味があります。

●記号について

注意!	操作中に気を付けていただきたい内容です。必ずお読みください。
メモ	補足事項や、参考となる情報を説明しています。

●表記について

本製品	corega BAR SW-4P HG または corega BAR HGWL を指します。 お買い上げの製品に読み替えてください。
「 」－「 」－「 」	「 」で囲まれた項目を順番に選択することを示します。

●イラスト、画面について

・ イラストや画面は、機種によって異なることがあります。
・ 本文中に記載の画面は、実際の画面と多少異なることがあります。

作業の流れ

本書では、本製品を使ってインターネットに接続できるようになるまでの作業をステップに分けて説明しています。各ステップでの作業は次のとおりです。順番に読んで、作業を進めてください。

STEP1

まず準備が必要

① 添付品の確認
② 使用環境の確認
　プロバイダーや回線業者との契約が済んでいるか、モデムなど必要な機器の準備ができているか、などを確認してください。
③ 本製品の特長、各部の名称と役割の確認

STEP2

ネットワークに接続だ（有線接続の場合）

① パソコンのネットワーク設定
　使用する OS に対応した箇所を読んでください。
② 本製品とパソコンの接続
③ 本製品の設定
　インターネット接続のための最小限の設定をします。ご利用になるプロバイダー、回線などによって、設定内容が異なります。該当する箇所を読んでください。
④ 本製品とモデムの接続
⑤ インターネットへの接続

ネットワークに接続だ（無線接続の場合）

corega BAR HGWLと無線LANアダプターを使って、無線でネットワークに接続する場合は、別冊『ワイヤレス設定編』の「STEP2　ネットワークに接続だ（無線接続の場合）」（P.6）をご覧になり、接続と設定を行ってください。

STEP2 までの作業が終われば、インターネットに接続できるようになります。
STEP3 以降は、必要に応じて読んでください。

STEP3

トラブルや疑問があったら

STEP2 までの作業で、インターネットへの接続ができなかった場合や、本製品の操作でわからないことがあった場合には、このステップを読んで解決方法を探してください。

STEP4

設定ユーティリティーを見てみよう

本製品は、内蔵の設定ユーティリティーによって、詳細な設定ができます。このステップでは、設定ユーティリティーで設定できる項目について説明しています。

メモ　corega BAR HGWL のワイヤレス機能の設定については、別冊『ワイヤレス設定編』の「付録　ワイヤレス機能の設定」(P.37) をご覧ください。

STEP5

こんなときにはこの設定

ネットワークゲーム、音声／ビデオチャットを利用する際の本製品での設定方法について説明しています。

STEP6

付録

製品仕様、保証と修理に関する説明があります。また、弊社へのお問い合わせの際には、このステップの中にある「お問い合わせ用紙」をご利用ください。

目次

安全にお使いいただくために 必ずお守りください …… 1
ご使用にあたってのお願い …… 3
お手入れについて …… 3
電波に関する注意（corega BAR HGWL をお使いの方へ）…… 4
はじめに …… 5
本書の読み方 …… 5
作業の流れ …… 6

STEP1 まず準備が必要 …… 10

添付品の内容を確認しよう …… 10
corega BAR SW-4P HG の場合 …… 10
corega BAR HGWL の場合 …… 11
使用環境を確認しよう …… 12
チェック 1 プロバイダーや回線業者との契約、工事は完了していますか？ …… 12
チェック 2 モデムやケーブルはそろっていますか？ …… 12
チェック 3 設定に必要な情報は準備できていますか？ …… 12
チェック 4 パソコンの環境はそろっていますか？ …… 13
チェック 5 無線で接続する場合の通信距離は問題ないですか？ …… 13
製品の特長をとらえよう …… 14
各部の名称と機能を覚えよう …… 15
本体前面 …… 15
本体背面 …… 16
本体底面 …… 17
専用無線 LAN カード（BAR HGWL-PCC）…… 18

STEP2 ネットワークに接続だ（有線接続の場合）…… 19

パソコンのネットワーク設定をしよう …… 19
Windows XP で利用しよう …… 19
Windows Me／98／95 で利用しよう …… 22
Windows 2000 で利用しよう …… 26
Mac OS で利用しよう …… 30
Web ブラウザーの設定をしよう …… 31
Windows の場合 …… 31
Macintosh の場合 …… 32
パソコンと本製品を接続しよう …… 32
本製品を設置する場所について …… 32
縦置きスタンドの取り付け方 …… 33
本製品の電源を入れるには …… 33
パソコン、モデムと本製品を接続する …… 34
本製品の設定をしよう …… 35
簡単に接続しよう …… 35
インターネットに接続してみよう …… 40
他のパソコンを接続する場合 …… 40

STEP3 トラブルや疑問があったら …… 41

解決のステップ …… 41
マニュアルや契約書を再確認する。管理者に確認する …… 42
Q&A …… 42
インターネットに接続できない …… 42
パソコン同士がつながらない …… 44
本製品の設定ユーティリティーが起動しない …… 44
本製品のパスワードを忘れた …… 45
ファームウェアのアップデートに失敗した …… 45
パソコンのIPアドレスを調べたい …… 45
本製品のパスワードを変更したい …… 47
最新のファームウェアを入手してアップデートしたい …… 47
本製品を再起動する …… 49
本製品を工場出荷時の状態に戻す …… 50
コレガのホームページの情報を活用する …… 51
それでも解決しなければ、サポート窓口に問い合わせてみる …… 52
「お問い合わせ用紙」の記入方法 …… 52
corega Net-Newsを購読する …… 53

STEP4 設定ユーティリティーを見てみよう …… 54

設定ユーティリティーの使い方 …… 54
設定ユーティリティーの全体構成について …… 54
設定画面の各機能 …… 55
Home ～WAN側、LAN側の現在の設定を表示する、設定ユーティリティーを終了する～ …… 55
Wizard ～まずインターネットに接続する～ …… 56
WAN（WAN側設定） ～インターネット（WAN）側の設定をする～ …… 56
LAN（LAN側設定） ～パソコン（LAN）側の設定をする～ …… 60
Wireless ～ワイヤレス機能の設定をする～（corega BAR HGWLのみ） …… 60
Password（パスワード） ～本製品の設定変更を制限する～ …… 61
Status（ステータス） ～現在の接続状態を表示する～ …… 61
Advanced ～より高度な機能を設定する～ …… 70

STEP5 こんなときにはこの設定 …… 87

オンライン（ネットワーク対戦）ゲームを遊び倒しちゃおう …… 87
音声／ビデオチャットなどのツールを使う …… 89

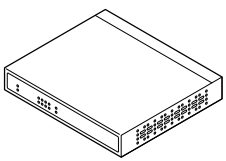
STEP6 付録 …… 90

製品仕様 …… 90
MACアドレスについて …… 92
保証と修理について …… 92
保証について …… 92
修理について …… 92
ユーザーサポートについて …… 93
おことわり …… 93
お問い合わせ用紙 …… 94

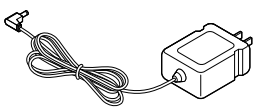
添付品の内容を確認しよう

本製品のパッケージには、以下のものが同梱されています（下記以外に添付紙が同梱されている場合があります）。お買い上げ商品についてご確認いただき、万一不足するものがございましたら、お手数ですが、弊社サポートセンターまでご連絡ください。

■ corega BAR SW-4P HG の場合



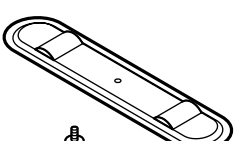
□ corega BAR SW-4P HG 本体



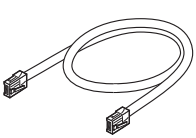
□専用 AC アダプター

□取扱説明書
『準備・ルーター設定編』（本書）

□製品保証書

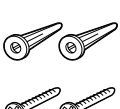


□縦置きスタンド（ネジ 1 個付き）



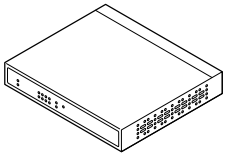
□ UTP ケーブル 1.8m（1 本）

□ゴム足（4 個）

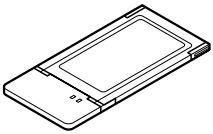


□壁掛けキット（2 セット）

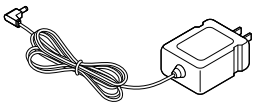
■ corega BAR HGWL の場合



□ corega BAR HGWL 本体



□専用無線 LAN カード BAR HGWL-PCC

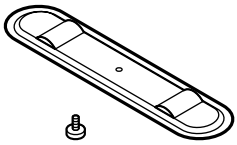


□専用 AC アダプター

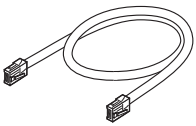
□取扱説明書
『準備・ルーター設定編』（本書）

□取扱説明書
『ワイヤレス設定編』

□製品保証書

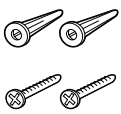


□縦置きスタンド（ネジ 1 個付き）



□ UTP ケーブル 1.8m（1 本）

□ゴム足（4 個）



□壁掛けキット（2 セット）

□電波注意ラベル

使用環境を確認しよう

本製品を接続する前に、以下の項目を確認し、☑のようにチェックを付けてください。

注意! 会社などで専用線を利用する場合は、ネットワーク管理者にご相談のうえ、必要な機器の準備、設定を行ってください。

チェック1

☐ プロバイダーや回線業者との契約、工事は完了していますか？

本製品を使ってインターネットに接続するには、ADSL、CATV、FTTHなどの回線を使ったインターネット接続サービスへの加入が必要です。また、回線業者、プロバイダーによる工事が完了するまでは、インターネットへの接続はできません。

注意! 回線業者によっては、ルーター機能付き機器の使用を禁じている場合があります。事前に回線業者に使用可否をご確認ください。

チェック2

☐ モデムやケーブルはそろっていますか？

回線と接続するには、回線の種類に応じたモデムが必要になります。また、回線への接続が正しくできているか、確認してください。確認方法については、ご契約のプロバイダーにお問い合わせください。
本製品とパソコンを有線で接続するには、UTPケーブルが必要になります。UTPケーブルを購入される場合は、カテゴリー５のUTPケーブル（ストレートタイプ）のものをご購入ください。
なお、本製品とモデムとの接続には、UTPケーブル（ストレートタイプまたはクロスタイプ）を使用してください。

注意! ストレートタイプかクロスタイプかは、モデムによって異なります。詳しくは、ご契約のプロバイダーにお問い合せください。

チェック3

☐ 設定に必要な情報は準備できていますか？

本製品の設定を行う際に、各サービス別に以下の情報が必要です。プロバイダーとの契約時に、以下のような情報が提供されますので契約書類などで確認し、メモしておいてください。不明な場合はご契約のプロバイダーにお問い合わせください。

PPPoE接続の場合（フレッツADSL等）	DHCPを利用する場合（CATV等）	固定IPアドレスで接続する場合（固定IPサービス）
・ユーザー名 ・パスワード ・サービス名（プロバイダーから指定された場合のみ） ・DNSサーバーのIPアドレス（プロバイダーから指定された場合のみ）	・コンピューター名（プロバイダーから指定された場合のみ） ・DNSサーバーのIPアドレス（プロバイダーから指定された場合のみ）	・WAN側のIPアドレス ・サブネットマスク ・ゲートウェイアドレス ・DNSサーバーのIPアドレス

注意! 上記の名称は、プロバイダーによって異なる場合があります。
例：ユーザー名→アカウント、ユーザID、ログインIDなど
ご不明な点は、ご契約のプロバイダーに確認してください。

チェック4

パソコンの環境はそろっていますか？

本製品とパソコンを接続するには、パソコン側に以下の環境が必要です。

メモ 無線で接続できるのは、corega BAR HGWL をご使用の場合のみです。

有線接続の場合	LAN コネクター（10BASE-T/100BASE-TX ポート）	LANコネクターがない場合は、ご利用のパソコンに合わせて次のいずれかの方法で、LANコネクターを増設してください。増設方法については、パソコン、またはLANボード、LANカード、LANアダプターの取扱説明書を参照してください。 ・ 拡張スロット（PCIバスまたはISAバス）にLANボードを取り付ける ・ PCカードスロットにLANカードを取り付ける ・ USBコネクターにLANアダプターを取り付ける
無線接続の場合	無線LAN アダプター	IEEE 802.11b対応の無線LANアダプターが必要です。ご利用のパソコンに適したものを取り付けてください。また、あらかじめドライバーや設定に必要なソフトウェアのインストールなども済ませておいてください。取り付け、設定方法については、パソコン、無線LANアダプターの取扱説明書を参照してください。
OS		本製品は、Windows 95／98／Me／2000／NT 4．0／XP、Mac OS、UNIX、Linuxなど、TCP/IPをサポートするすべてのOSに対応しています。
Web ブラウザー		本製品の設定は、Webブラウザー（フレームに対応しているもの）で行います。パソコンに次のいずれかのWebブラウザーがインストールされているか、確認してください。 ・Microsoft Internet Explorer 5.0以降 ・Netscape Communicator 4.7以降

チェック5

無線で接続する場合の通信距離は問題ないですか？

corega BAR HGWLと無線で接続する場合の最大通信距離は、理論上、屋外で150m、屋内で50mです。corega BAR HGWLとパソコンとの距離が離れすぎたり、周辺に障害物があったりしないか、確認しておいてください。

メモ 周辺の環境（障害物など）や通信距離、パソコン側の無線LANアダプターの性能などにより、通信速度、距離が大きく変動します。

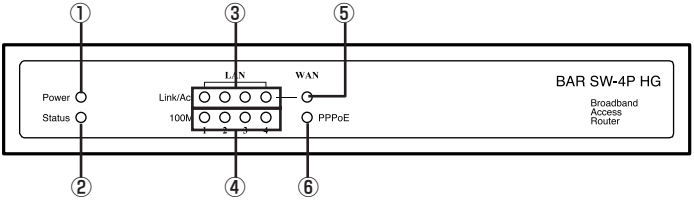
製品の特長をとらえよう

本製品には、次のような機能があります。

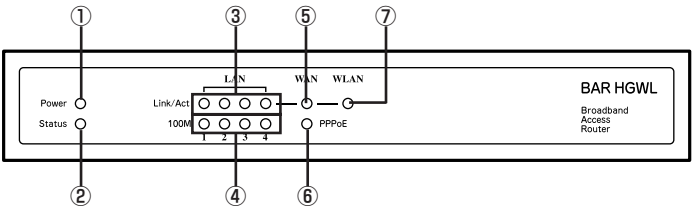
- FTTH/ADSL/ フレッツ ADSL/CATV 対応のワイヤレスブロードバンドルーター
- WAN ポートは 100BASE-TX/10BASE-T 対応
- セットアップウィザードで簡単インターネット接続
- 簡単 Web 設定で無線 LAN アクセスポイント機能をサポート（corega BAR HGWL のみ）
- 802.11b の WiFi 認定による相互接続性を確保（corega BAR HGWL のみ）
- 64/128bitのWEP暗号化による高度なセキュリティーを確保（corega BAR HGWLのみ）
- 2 つのルーティング方式（スタティック ,RIP）に対応
- PC データベースによるユーザー管理が可能
- 詳細なアクセス制限が可能
- E-MAIL 機能にてログ情報を指定のアドレスに送信可能
- DDNS（ダイナミック DNS）対応
- Web 管理による HTTP からのファームウェアアップグレードが可能
- インターネットを経由したリモート設定が可能
- UPnP 対応
- NetMeeting、Windows Messsenger、MSN Messesnger に対応

各部の名称と機能を覚えよう

■本体前面



corega BAR SW-4P HG



corega BAR HGWL

① Power LED （緑）

本製品の電源が入っているときに、緑色に点灯します。

② Status LED （赤）

システム初期化時のセルフテストの状況が表示されます。

点灯：セルフテストの結果、異常がありました。
点滅：本製品の起動中です。
消灯：本製品は正常に動作しています。

③ Link/Act LED（LAN 側）（緑）

本体背面のLANポートの状態が表示されます。

点灯：ケーブルが正常に接続されています。
点滅：データ通信中です。
消灯：ケーブルが接続されていません。

④ 100M LED（LAN 側）（橙）

本体背面の LAN ポートの動作速度が表示されます。

点灯：100Mbps で動作しています。
消灯：10Mbps で動作しています。

⑤ Link/Act LED（WAN 側）（緑）

本体背面の WAN ポートの状態が表示されます。

点灯：ケーブルが接続されています。
点滅：データ通信中です。
消灯：ケーブルが接続されていません。

⑥ PPPoE LED（WAN 側）（緑）

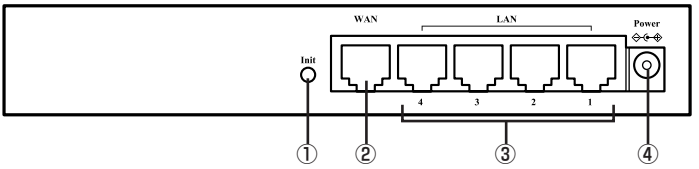
PPPoE 接続の状態が表示されます。

点灯：接続中です。
消灯：接続されていません。

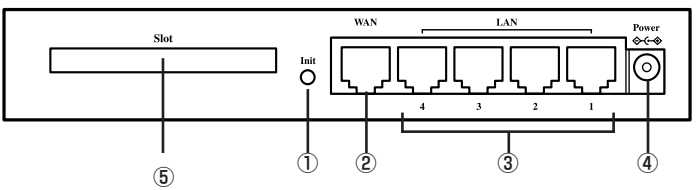
⑦ WLAN LED（緑）

無線LANアダプターとの通信状態が表示されます。データの送受信が行われているときに点滅します。

■本体背面



corega BAR SW-4P HG



corega BAR HGWL

① Init スイッチ

本製品の再起動、または設定内容を工場出荷時の状態に戻す場合に使用します。操作方法については、「本製品を再起動する」(P.49)、または「本製品を工場出荷時の状態に戻す」(P.50) を参照してください。Init スイッチを使用して工場出荷時の状態に戻すと設定内容が失われますので操作方法をよくお読みになって使用してください。

② WAN ポート

本製品と ADSL ／ CATV モデムまたは既存のネットワークを接続するためのポート（RJ-45）です。

③ LAN ポート

パソコンやハブを接続するためのポートです。１～４までの４つのポートがあります。100Mbps/10Mbpsの切り替えは、オートネゴシエーション機能によって自動的に行われます。

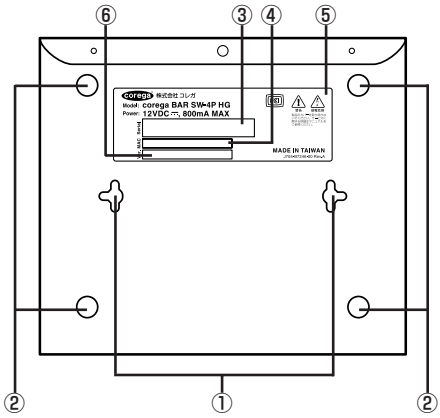
④ DC ジャック

添付の専用AC アダプターを接続するためのコネクターです。

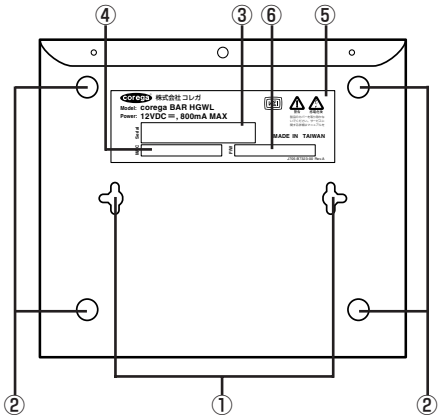
⑤専用無線 LAN カード用スロット

添付の専用無線 LAN カードを取り付けるためのスロットです。

■本体底面



corega BAR SW-4P HG



corega BAR HGWL

①壁掛け用穴

添付の壁掛けキットを使って、本製品を壁に掛けて使うときに使用します。

②ゴム足取り付け穴

添付のゴム足を取り付けるための穴です。

③シリアル番号シール

本製品のシリアル番号とリビジョンが記載されています。シリアル番号とリビジョンは、ユーザーサポートへの問い合わせの際に必要となります。

④MACアドレスラベル

本製品のWAN側ポートのMACアドレスが記載されています。

⑤警告ラベル

本製品を安全にご使用いただくための重要な情報が記載されておりますので、必ずお読みください。

⑥ファームウェアラベル

本製品をご購入時のファームウェアバージョンが記載されています。

■専用無線 LAN カード（BAR HGWL-PCC）

※ corega BAR HGWL にのみ添付されています。

<表　面>

① Power LED

本製品の電源が供給されているときに緑色に点灯します。

② Link LED

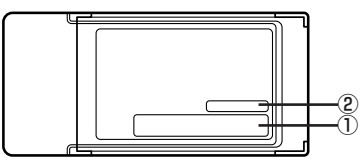
無線接続しているパソコンとの接続状態を表します。
点灯：接続が確立している状態
点滅：接続が確立していない状態
消灯：電源が供給されていない状態

③製品ラベル

専用無線LANカードの製品名が記載されています。

メモ　上の図で 2.4 DS 4 は次の内容を意味しています。

使用周波数帯域	2.4GHz 帯
変調方式	DS-SS 方式
想定干渉距離	20m 以下
周波数変更の可否	全帯域を使用し、かつ「構内局」あるいは「特小局」帯域を回避可能



<裏　面>

①シリアル番号ラベル

専用無線LANカードのシリアル番号(製造番号)とリビジョンが記載されています。シリアル番号とリビジョンは、ユーザーサポートへ問い合わせていただく際に必要な情報です。

② MAC アドレスラベル

専用無線LANカードのMACアドレスが記載されています。

ここでは、有線接続でインターネットに接続するまでの手順を説明しています。
corega BAR HGWLと無線LANアダプターを使って、無線接続でインターネットに接続する場合は、別冊『ワイヤレス設定編』を参照して作業を行ってください。

パソコンのネットワーク設定をしよう

本製品を利用してインターネット接続ができるように、ご使用になるパソコンのネットワーク設定を行います。次の内容を確認してください（確認と設定の方法は、OSの種類など、ご使用になるパソコンの環境により異なります）。

・ネットワークアダプタの設定
・TCP/IPの設定

メモ　複数のパソコンをインターネットに接続させる場合、すべてのパソコンでネットワーク設定を行う必要があります。

■ Windows XPで利用しよう

注意!　この作業は「コンピュータの管理者」または同等の権限をもつユーザー名でログオンして行ってください。ユーザー権限については、OSの取扱説明書を参照してください。

●ネットワークアダプタの状態を確認する

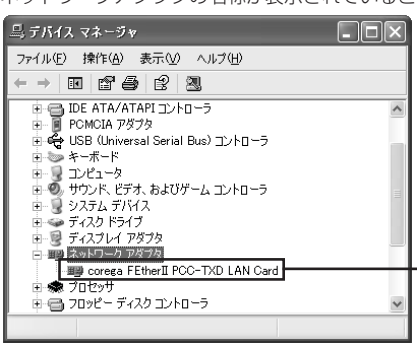
パソコンに取り付けられたネットワークアダプタが正常に動作しているか、デバイスマネージャなどで確かめます。

1　「スタート」−「マイコンピュータ」を右クリックし、メニューの「プロパティ」をクリックします。

2　「ハードウェア」タブを表示して「デバイスマネージャ」ボタンをクリックします。

3　「デバイスマネージャ」画面の「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。

4　ネットワークアダプタの名称が表示されていることを確認します。



ネットワークアダプタ
※実際に表示される名称は、ご使用になっているネットワークアダプタのメーカー、機種によって異なります。

注意!　×や！マークが表示されている場合、ネットワークアダプタは正常に動作していません。ネットワークアダプタのマニュアルをお読みになり、正常な状態にしてください。

● TCP/IP プロトコルを確認する

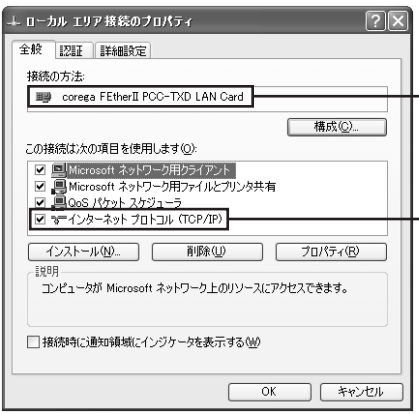
1 「スタート」−「コントロールパネル」をクリックします。

2 「コントロールパネル」にある「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。
「ネットワークとインターネット接続」が表示されていない場合は、画面左側の「カテゴリの表示に切り替える」をクリックしてください。

3 「ネットワーク接続」アイコンをクリックします。

4 「ローカルエリア接続」を右クリックし、メニューから「プロパティ」を選択します。

5 「全般」タブで「インターネットプロトコル(TCP/IP)」が有効になっているか確認します。

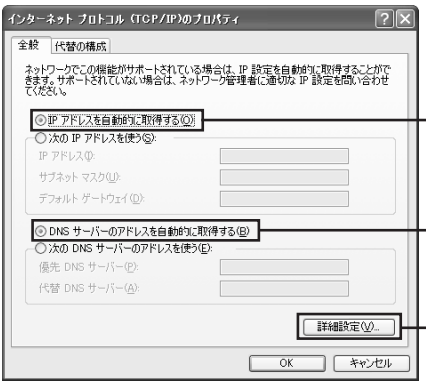


ネットワークアダプタ
※実際に表示される名称は、ご使用になっているネットワークアダプタのメーカー、機種によって異なります。

チェックマークが入っていることを確認してください。

6 「インターネットプロトコル(TCP/IP)」を選択し、「プロパティ」ボタンをクリックします。

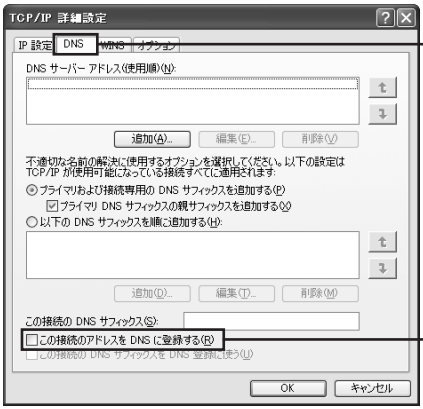
7 「全般」タブにある「IPアドレスを自動的に取得する」と「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択し、「詳細設定」ボタンをクリックします。



①この項目を選択します。

②クリックします。

8 「TCP/IP詳細設定」画面で「DNS」タブをクリックし、「この接続のアドレスをDNSに登録する」のチェックを外します。



①ここをクリックします。

②この項目のチェックマークを外します。

注意! **プロバイダーからドメイン名も指定されている場合**

「以下のDNSサフィックスを順に追加する」を選択し、「追加」ボタンをクリックして指定されたドメイン名を入力してください。

①この項目を選択します。

②「追加」ボタンをクリックして指定されたドメイン名を入力します。

※ DNS 設定例

9 「OK」ボタンをクリックします。

10 「インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ」画面で、「OK」ボタンをクリックします。

11 「ローカルエリア接続のプロパティ」画面で、「OK」ボタンをクリックします。

12 再起動を促すメッセージが表示された場合は、再起動します。

メモ メッセージが表示されなかった場合も、手動で再起動してください。

13 次に「Webブラウザーの設定をしよう」(P.31)に進みます。

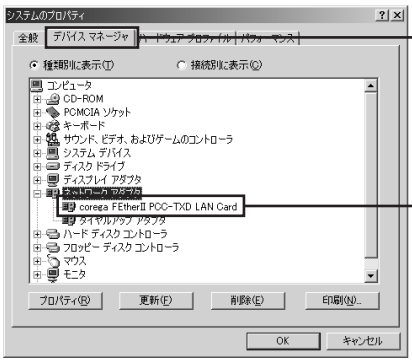
■ Windows Me／98／95 で利用しよう

●ネットワークアダプタの状態を確認する

パソコンに取り付けられたネットワークアダプタが正常に動作しているか、デバイスマネージャなどで確かめます。

1 デスクトップにある「マイコンピュータ」を右クリックし、メニューの「プロパティ」をクリックします。

2 「デバイスマネージャ」タブをクリックし、表示されたハードウェアデバイスの一覧から「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。
ネットワークアダプタの名称が表示されていることを確認します。



①ここをクリックします。

ネットワークアダプタ
※実際に表示される名称は、ご使用になっているネットワークアダプタのメーカー、機種によって異なります。

注意! ・×や!マークが表示されている場合、ネットワークアダプタは正常に動作していません。ネットワークアダプタのマニュアルをお読みになり、正常な状態にしてください。

・「Microsoft仮想プライベートネットワークアダプタ」「ダイヤルアップアダプタ」などのアダプタ名が表示されていることがありますが、これらは本製品で使用するネットワークアダプタと関係ありません。

●TCP/IP プロトコルを確認する

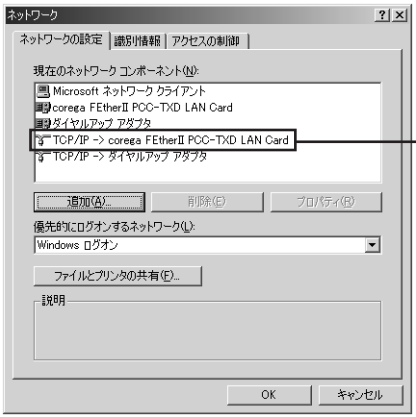
ここでは例として Windows Me を使用しています。Windows 98／95 をご使用の場合も手順は同様です。

1 「スタート」−「設定」−「コントロールパネル」をクリックします。

メモ Windows Meの場合、よく使うコントロールパネルのオプションだけが表示されているときは、「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。」をクリックすると、「ネットワーク」アイコンが表示されます。

2 「コントロールパネル」にある「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。

3 「ネットワークの設定」タブ内で「現在のネットワークコンポーネント」の欄に「TCP/IP －> XXXXX（ネットワークアダプタ名）」が表示されていることを確認します。

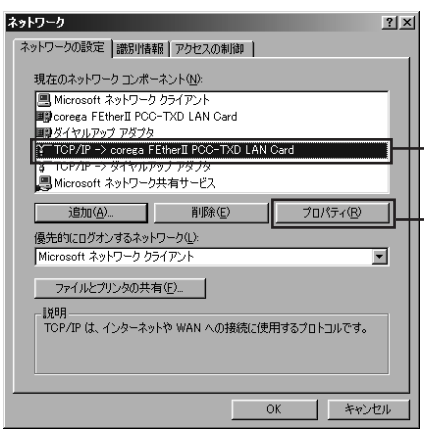


※画面は例です。
・「TCP/IP －>」の横に表示される名称は、ご使用になっているネットワークアダプタのメーカー、機種によって異なります。
・ダイヤルアップアダプタがない場合は「インターネットプロトコル（TCP/IP）」、「TCP/IP」などと表示される場合もあります。

2

メモ 「TCP/IP －> XXXXX（ネットワークアダプタ名）」が表示されていなかった場合は、「TCP/IP をインストールする」（P.25）を参照してください。

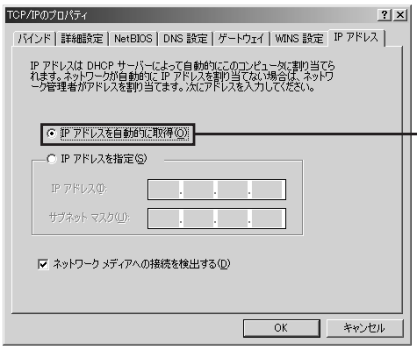
4 「現在のネットワークコンポーネント」の一覧から「TCP/IP －>XXXXX（ネットワークアダプタ名）」を選択し、「プロパティ」ボタンをクリックします。



①ご使用のネットワークアダプタ名が表示されているものを選択します。
②「プロパティ」ボタンをクリックします。

メモ 「TCP/IP －> XXXXX（ネットワークアダプタ名）」が複数表示されている場合は、ご使用になるネットワークアダプタの方を選択します。

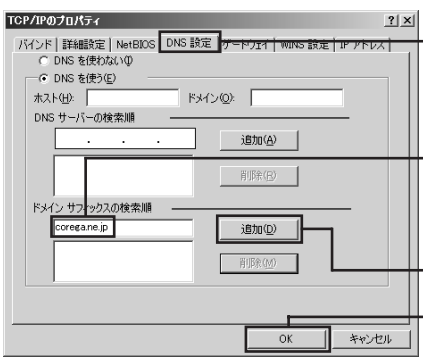
5 「IPアドレス」タブで「IPアドレスを自動的に取得」を選択します。



①この項目を選択します。

注意! **プロバイダーからドメイン名も指定されている場合**

「DNS設定」タブで「DNSを使う」を選択し、「ドメインサフィックスの検索順」の欄に指定されたドメイン名を入力して「追加」ボタンをクリックしてください。



① 「DNS設定」 タブをクリックします。

②ドメイン名を入力します。
画面は例です。実際にはプロバイダーから指定されたドメイン名を入力してください。

③クリックします。

④クリックします。

※ DNS 設定例

6 「OK」ボタンをクリックします。

7 「ネットワーク」画面の、「OK」ボタンをクリックします。

メモ Windows の OS 用ディスクを入れるようにダイアログが表示された場合はドライブに Windows の OS 用ディスクを挿入し、メッセージにしたがって操作します。
再起動を促すメッセージが表示されたら再起動します。

8 次に「Webブラウザーの設定をしよう」(P.31)に進みます。

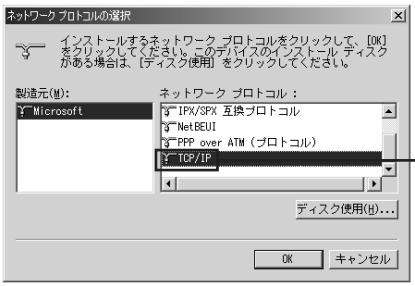
● TCP/IP をインストールする

TCP/IP がインストールされていなかった場合は、次の手順でインストールしてください。

1 「ネットワーク」の画面で、「追加」ボタンをクリックします。

2 「ネットワークコンポーネントの種類の選択」画面で「プロトコル」を選択し、「追加」ボタンをクリックします。

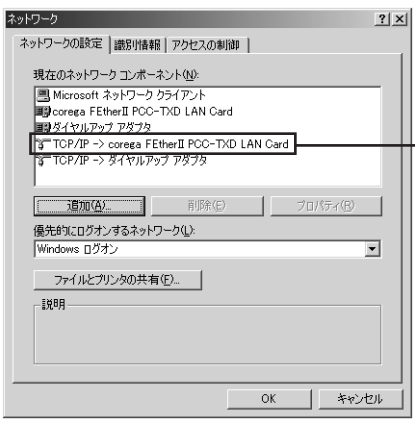
3 「ネットワークプロトコルの選択」画面の「製造元」で「Microsoft」を選択し、「ネットワークプロトコル」の一覧から「TCP/IP」を選択します。



TCP/IP を選択します。

4 「OK」ボタンをクリックします。

5 「現在のネットワークコンポーネント」の一覧に「TCP/IP －>XXXXX(ネットワークアダプタ名)」が追加されていることを確かめます。



※画面は例です。
- 「TCP/IP －>」の横に表示される名称は、ご使用になっているネットワークアダプタのメーカー、機種によって異なります。
- ダイヤルアップアダプタがない場合は「インターネットプロトコル(TCP/IP)」、「TCP/IP」などと表示される場合もあります。

6 「OK」ボタンをクリックして「ネットワーク」画面を閉じると、再起動を促すメッセージが表示されますので、再起動します。

(メモ) メッセージが表示されなかった場合も、手動で再起動してください。

インストールが完了したら、「TCP/IP プロトコルを確認する」(P.22) の手順を行ってください。

■ Windows 2000 で利用しよう

注意! この作業は、「Administrator」または同等の権限を持つユーザー名でログインして行ってください。ユーザー権限については、OS の取扱説明書を参照してください。

●ネットワークアダプタの状態を確認する

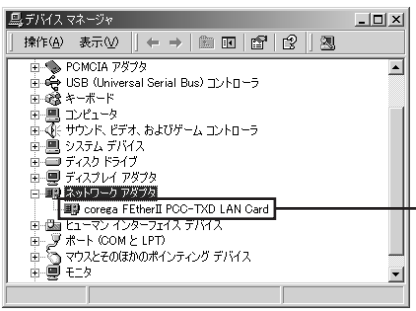
パソコンに取り付けられたネットワークアダプタが正常に動作しているか、デバイスマネージャなどで確かめます。

1 デスクトップにある「マイコンピュータ」を右クリックし、メニューの「プロパティ」をクリックします。

2 「ハードウェア」タブを選択し、「デバイスマネージャ」ボタンをクリックします。

3 一覧の「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。

4 ネットワークアダプタの名称が表示されていることを確かめます。



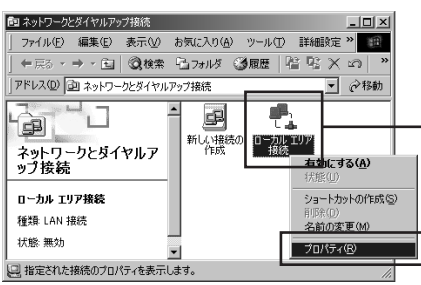
ネットワークアダプタ
※実際に表示される名称は、ご使用になっているネットワークアダプタのメーカー・機種によって異なります。

注意! ×や！マークが表示されている場合、ネットワークアダプタは正常に動作していません。ネットワークアダプタのマニュアルをお読みになり、正常な状態にしてください。

●TCP/IP プロトコルを確認する

1 「スタート」−「設定」−「ネットワークとダイヤルアップ接続」をクリックします。

2 「ローカルエリア接続」アイコンを右クリックし、メニューの「プロパティ」をクリックします。

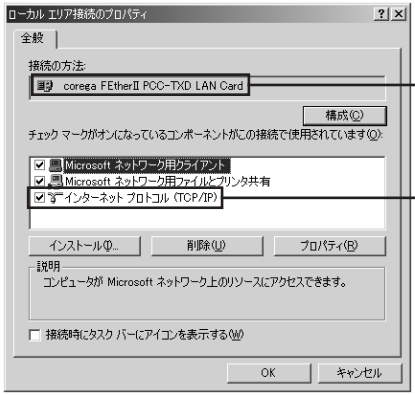


①「ローカルエリア接続」のアイコンを右クリックします。

②「プロパティ」をクリックします。

※「ローカルエリア接続」の名称はご使用のパソコンの環境により異なる場合があります。

3 「インターネットプロトコル(TCP/IP)」が有効になっていることを確認します。



※実際に表示される名称は、ご使用になっているネットワークアダプタのメーカー・機種によって異なります。

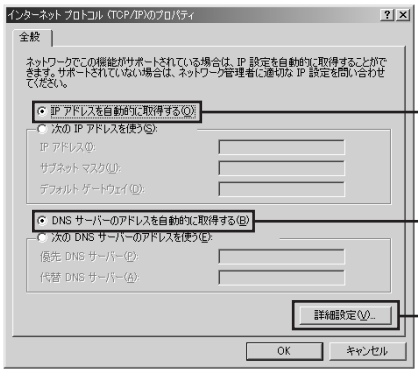
チェックマークが入っていることを確認してください。

2

メモ 「インターネットプロトコル（TCP/IP)」が一覧にない場合は、「TCP/IPをインストールする」（P.29）を参照してください。

4 「インターネットプロトコル(TCP/IP)」を選択し、「プロパティ」ボタンをクリックします。

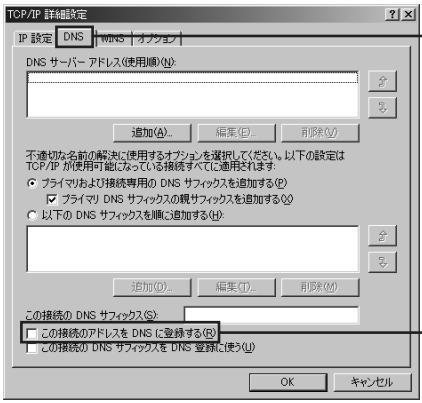
5 「IPアドレスを自動的に取得する」と「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択し、「詳細設定」ボタンをクリックします。



①この項目を選択します。

②クリックします。

6 「TCP/IP 詳細設定」画面で「DNS」タブを選択し、「この接続のアドレスをDNS に登録する」のチェックを外します。

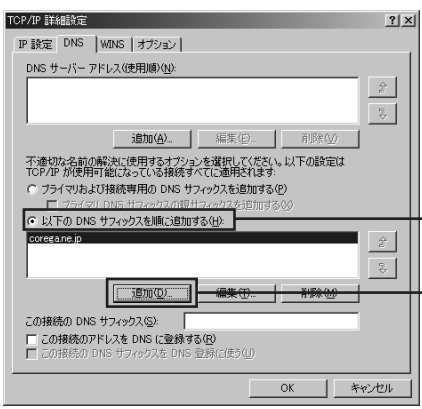


①ここをクリックします。

②この項目のチェックマークを外します。

注意! **プロバイダーからドメイン名も指定されている場合**

「以下のDNSサフィックスを順に追加する」を選択し、「追加」ボタンをクリックして指定されたドメイン名を入力してください。



①この項目を選択します。

②「追加」ボタンをクリックして指定されたドメイン名を入力してください。

7 「OK」ボタンをクリックします。

8 「ローカルエリア接続のプロパティ」画面で「OK」ボタンをクリックします。

9 再起動を促すメッセージが表示された場合は再起動します。

メモ メッセージが表示されなかった場合も、手動で再起動してください。

10 次に「Webブラウザーの設定をしよう」(P.31)に進みます。

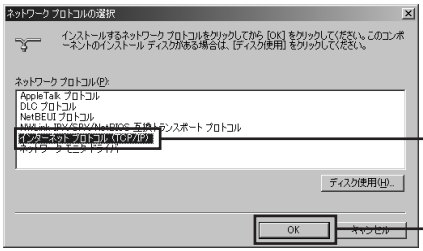
● TCP/IP をインストールする

TCP/IP がインストールされていなかった場合は、次の手順でインストールしてください。

1 「ローカルエリア接続のプロパティ」画面で「インストール」ボタンをクリックします。

2 「ネットワークコンポーネントの種類の選択」画面が表示されたら「プロトコル」を選択し、「追加」ボタンをクリックします。

3 「ネットワークプロトコルの選択」画面が表示されたら「インターネットプロトコル(TCP/IP)」を選択し、「OK」ボタンをクリックします。



①「インターネットプロトコル(TCP/IP)」を選択します。

②「OK」ボタンをクリックします。

4 「ローカルエリア接続のプロパティ」画面で「インターネットプロトコル(TCP/IP)」が有効になっていることを確認します。

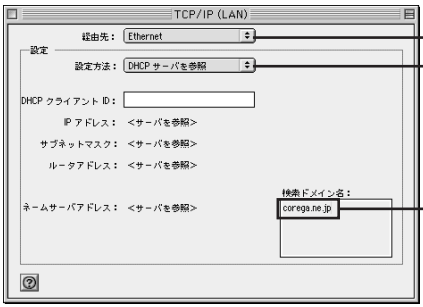
インストールが完了したら、「TCP/IP プロトコルを確認する」(P.26) の手順を行ってください。

■ Mac OS で利用しよう

● Mac OS 8.x ～ 9.x の場合

1 コントロールパネルにある「TCP/IP」を開きます。

2 「経由先」で「(内蔵)Ethernet」を、「設定方法」で「DHCPサーバを参照」を選択します。



①「(内蔵)Ethernet」を選択します。

②「DHCPサーバを参照」を選択します。

プロバイダーからドメイン名も指定されている場合は、「検索ドメイン名」欄に指定されたドメイン名を入力し、追加してください。ここでは例として「corega.ne.jp」を入力しています。

3 画面を閉じます。

4 次に「Webブラウザーの設定をしよう」(P.31)に進みます。

● Mac OS X の場合

1 「アップルメニュー」−「システム環境設定」を選択します。

2 「システム環境設定」画面で「ネットワーク」をクリックします。

メモ ツールバーに「ネットワーク」がない場合は、「すべてを表示」をクリックします。

3 「ネットワーク」の「表示」で「(内蔵)Ethernet」を、「TCP/IP」タブの「設定」で「DHCPサーバを参照」を選択します。

①「(内蔵)Ethernet」を選択します。

②「DHCPサーバを参照」を選択します。

プロバイダーからドメイン名も指定されている場合は、「検索ドメイン」欄に指定されたドメイン名を入力し、追加してください。ここでは例として「corega.ne.jp」を入力しています。

4 「今すぐ適用」ボタンをクリックします。

5 次に「Webブラウザーの設定をしよう」(本ページ)に進みます。

Web ブラウザーの設定をしよう

本製品を設定できるように、Web ブラウザーの設定を行います。ここでは、Internet Explorerの場合の設定方法を例に説明しています。その他のWeb ブラウザーの場合は、Web ブラウザーのヘルプなどを参照してください。

■ Windows の場合

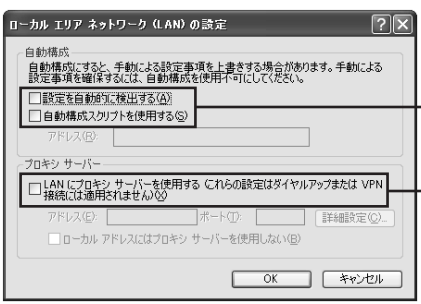
ここでは、Internet Explorer 6.0 の場合の設定方法を説明しています。

1 Internet Explorerを起動し、「ツール」−「インターネットオプション」をクリックします。

2 「インターネットオプション」画面が表示されたら「接続」タブをクリックします。

3 「LANの設定」ボタンをクリックします。

4 「ローカルエリアネットワーク(LAN)の設定」画面で「設定を自動的に検出する」「自動構成スクリプトを使用する」「LANにプロキシサーバーを使用する」のチェックマークを外します。



この項目のチェックマークを外します。

5 「OK」ボタンをクリックします。

6 「インターネットオプション」画面で「OK」ボタンをクリックします。

7 次に「パソコンと本製品を接続しよう」(P.32)に進みます。

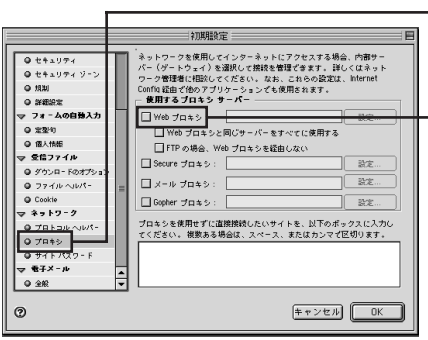
■ Macintosh の場合

ここでは、Internet Explorer 5.0 の場合の設定方法を説明しています。

1 Internet Explorerを起動し、「編集」−「初期設定」をクリックします。

2 「初期設定」画面の左にある設定項目から「ネットワーク」を選択し、「プロキシ」をクリックします。

3 「使用するプロキシサーバー」の設定項目内にある「Webプロキシ」のチェックマークを外します。



4 「OK」ボタンをクリックします。

5 次に「パソコンと本製品を接続しよう」(本ページ)に進みます。

パソコンと本製品を接続しよう

■本製品を設置する場所について

本書冒頭の「安全にお使いいただくために」をお読みになり、使用時の注意についてご確認ください。本製品の側面にある通気口は、放熱のため塞がないでください。本製品を安定させて設置する場所が見つからない場合は、添付の縦置きスタンドを本製品の側面に取り付けることで、本製品を立てて設置できます。

●設置に適した場所

・水平で落下の恐れがない場所（机の上など）
・風通しのよい涼しい場所

●設置に適さない場所

・直射日光が当たる場所
・暖房器具の近くなど
・高温多湿でホコリの多い場所
・パソコンやモデムなど、発熱する機器の上

●ゴム足の取り付け方

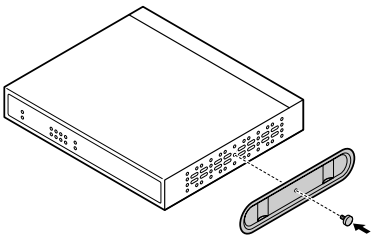
ゴム足は、シールをはがして本製品底面のゴム足取り付け穴に貼り付けてください。

■縦置きスタンドの取り付け方

本製品を縦置きで使用する場合は、添付の縦置きスタンドをご利用ください。

1 縦置きスタンドの穴にネジをはめ込みます。

2 本製品側面(左右どちらでも可)にある穴に縦置きスタンドのネジを合わせ、マイナスのドライバーを使用して固定します。



■本製品の電源を入れるには

●本製品の電源の取り方

本製品の電源は、たこ足配線などを避け、他の機器と別系統で取るようにしてください。必ず付属の専用ACアダプターを使用し、AC100Vの電源コンセントに接続してください。それ以外のACアダプターやコンセントを使用すると、発熱による発火や感電の恐れがあります。

●本製品の電源の入れ方／切り方

本製品背面のDCジャックにACアダプターのDCプラグを接続し、ACプラグを電源コンセントに差し込むと電源が入ります。ACアダプターのACプラグを電源コンセントから抜くと電源が切れます。

注意! ・本製品には電源スイッチがありません。ACプラグを電源コンセントに接続した時点で、電源が入りますのでご注意ください。
・ACアダプターのACプラグを電源コンセントに差し込んだままDCプラグを抜かないでください。感電事故を引き起こす恐れがあります。

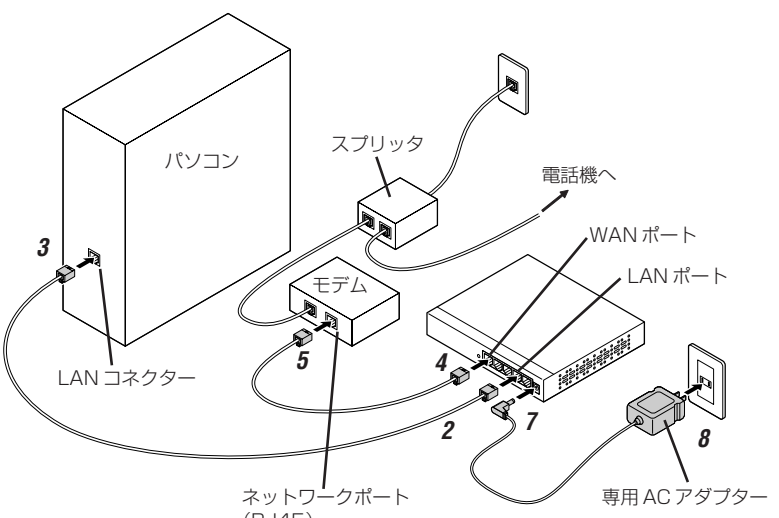
■パソコン、モデムと本製品を接続する

本製品とモデム、パソコンなどネットワーク接続する機器はUTPケーブルで接続してください。

●推奨ケーブルについて

すべてのケーブルが機器間を接続するのに適切な長さであることを確認します。本製品とパソコンを接続するUTPケーブルの長さは100m以内にしてください。また、ケーブルは、カテゴリー5のUTPケーブル（ストレートタイプ）を使用してください。

1. 本製品、モデム、パソコンなどネットワーク接続する機器の電源をすべて切るか、電源コンセントから抜いてください。
2. 本製品背面のLANポートにUTPケーブルを接続します。
3. UTPケーブルのもう一方をパソコンのLANコネクターに接続します。
4. 本製品背面のWANポートに添付のUTPケーブルを接続します。
5. モデムのネットワークポート（RJ45）にUTPケーブルのもう一方を接続します。
6. モデムの電源を入れます。
7. 本製品背面のDCジャックに専用ACアダプターを接続します。
8. 本製品のACアダプターをコンセントに接続し、本製品の電源を入れます。
   本製品前面のStatus LEDが点滅します。



9. パソコンの電源を入れます。
10. 本製品前面のLAN側のLink/Act LEDが点灯していることを確認します。

本製品の設定をしよう

パソコンから本製品を使ってインターネットに接続できるように本製品の設定を行います。本製品の設定はWebブラウザーで行います。本製品に接続されているパソコンのうち、1台から設定作業を行ってください。Webブラウザーには Internet Explorer 5.0 以降、または Netscape Navigator 4.7 以降をご利用ください。これ以外の Web ブラウザーでは、正常にセットアップが行えません。

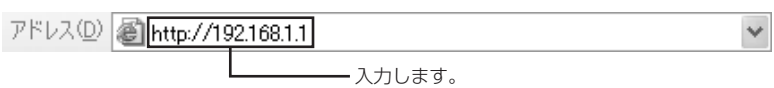
■簡単に接続しよう

インターネットに接続できるように最小限の設定をします。インターネットへの接続方式はご契約されたプロバイダーによって異なります。P.12のチェック3でメモした情報を準備してください。

注意! 設定用パソコンでウイルス駆除ソフト、ファイアーウォールソフトなどのセキュリティーソフトが稼働していると、本製品の設定に失敗することがあります。一時的にセキュリティーソフトを停止させて本製品の設定を行い、設定作業が終了してから再度稼働させてください。セキュリティーソフトの停止、稼働の方法は、セキュリティーソフトの取扱説明書を参照してください。

1 本製品に接続したパソコンで、Internet ExplorerなどのWebブラウザーを起動します。

2 Webブラウザーのアドレス入力欄に「http://192.168.1.1」と入力し、キーボードの「Enter」キーを押します。



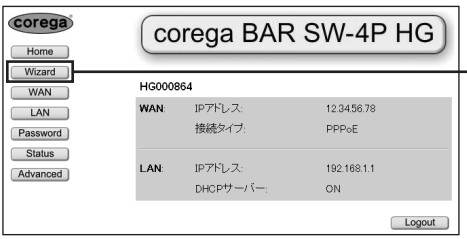
3 ユーザー名とパスワードを入力する画面が表示されたら、ユーザー名の欄に「root」と入力し、「OK」ボタンをクリックします。

※上の画面はWindows XPのものですが、他のOSでも手順は同じです。

メモ ・工場出荷時の状態では、ユーザー名は「root」に設定されています。パスワードは設定されていません。
・ユーザー名、パスワードは変更できます。

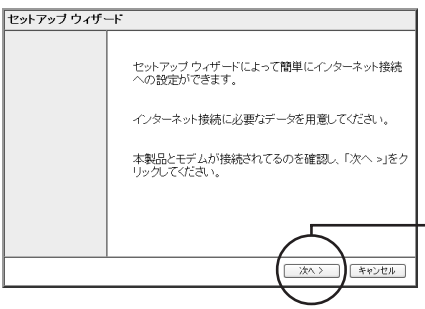
4 設定ユーティリティーが起動します。
ここでは、corega BAR SW-4P HGを例に説明します。

5 設定ユーティリティーの左側にある「Wizard」ボタンをクリックします。



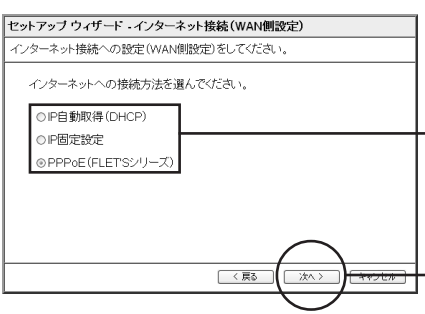
「Wizard」ボタンをクリックします。

6 「セットアップウィザード」が表示されたら、「次へ>」ボタンをクリックします。



「次へ」ボタンをクリックします。

7 「セットアップウィザード-インターネット接続(WAN側設定)」が表示されたら、ご契約のプロバイダーの接続タイプを選択し「次へ」ボタンをクリックします。



①ご契約のプロバイダーの接続タイプをクリックします。

②「次へ」ボタンをクリックします。

次頁を参考に、該当する接続タイプを選択してください。

● **IP 自動取得（DHCP）－ CATV 等（本ページ）**
プロバイダーからIPアドレスが特に指定されていない場合に選択します。DHCP機能を利用して、IPアドレスが自動的に割り当てられます。

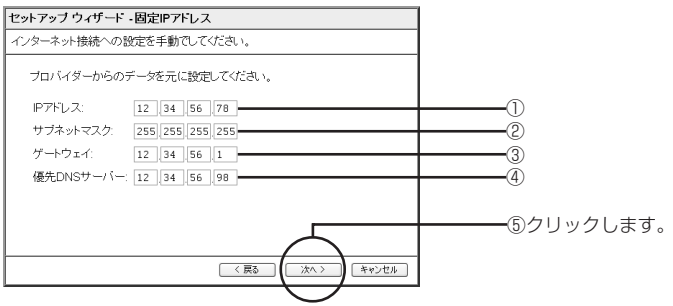
● **IP 固定設定－固定 IP サービス等（本ページ）**
プロバイダーから固定IPアドレスを取得している場合に選択します。

● **PPPoE（FLET'S シリーズ）－フレッツ ADSL、B フレッツ等（P.38）**
PPPoEと呼ばれる接続手順を使ってインターネットに接続する場合に選択します。プロバイダーよりユーザー名とパスワードが割り当てられます。本製品ではプロバイダーの情報を設定ユーティリティーに登録すると、プロバイダーから配布される「フレッツ接続ツール」などを使用せずに自動的にインターネットに接続できます。

8 接続タイプに応じて「セットアップウィザード」の各項目を設定します。次の接続タイプごとの説明を参考に、設定を行ってください。

● **「IP 自動取得（DHCP）」の場合**
「IP自動取得（DHCP）」を選択した場合は、「セットアップウィザード」で設定する項目はありません。
P.38の操作9に進んでください。

● **「IP 固定設定」の設定項目**
この画面は、下の表の入力例を使用した場合の例です。実際にはご使用の環境に合った値を設定してください。

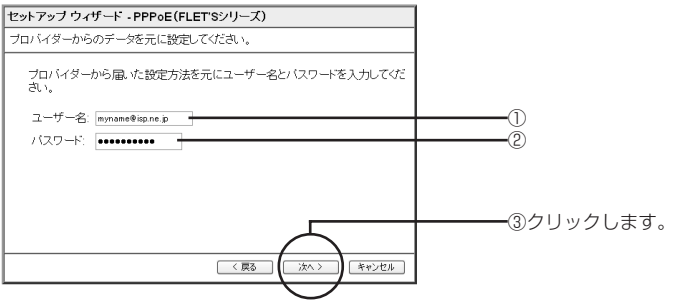


項目名	入力例	説明
① IP アドレス	12.34.56.78	プロバイダーから指定された IP アドレスを入力します。
②サブネットマスク	255.255.255.255	プロバイダーから指定されたサブネットマスクを入力します。
③ゲートウェイアドレス	12.34.56.1	プロバイダーから指定されたゲートウェイの IP アドレスを入力します。
④優先 DNS サーバー	12.34.56.98	ローカルに DNS サーバーを設置する場合、またはプロバイダーから DNS アドレスを提供されている場合に入力します。

設定が終わったら「次へ」ボタンをクリックします。

●「PPPoE（FLET'S シリーズ）」の場合

この画面は、下の表の入力例を使用した場合の例です。実際にはご使用の環境に合った値を設定してください。



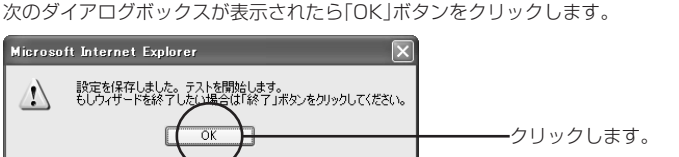
項目名	入力例	説明
①ユーザー名	myname@isp.ne.jp	プロバイダーより指定されたユーザー名※を入力します。
②パスワード	Password02	プロバイダーより指定されたパスワード※を入力します。画面上では「＊」または「●」で表示されます。

※ プロバイダーによって呼び方が異なる場合があります。

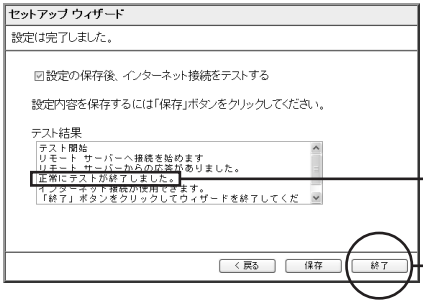
設定が終わったら、「次へ」ボタンをクリックします。

9 次の画面が表示されたら、「設定の保存後、インターネット接続をテストする」にチェックマークを入れて、「保存」ボタンをクリックします。

10 次のダイアログボックスが表示されたら「OK」ボタンをクリックします。



11 しばらくすると、テスト結果が表示されるので確認して「終了」ボタンをクリックします。パソコン、モデムと本製品の設定、接続に問題がなければ、テスト結果の欄に「正常にテストが終了しました。」と表示されます。

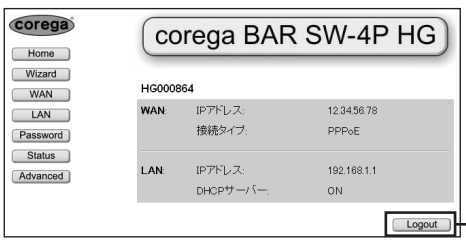


①ここを確認します。問題がなければ、このように表示されます。

②「終了」ボタンをクリックします。

メモ 「正常にテストが終了しました。」と表示されなかった場合は、下記の「テストに失敗したときは」を参照して対処してください。

12 操作4の画面に戻ったら「Logout」ボタンをクリックして設定ユーティリティーを終了します。



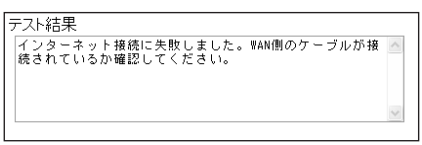
「Logout」ボタンをクリックします。

これで、本製品の基本的な設定は終わりです。

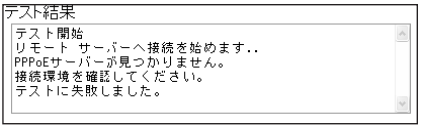
メモ その他の設定項目については、「STEP4 設定ユーティリティーを見てみよう」をご覧ください。本製品のより高度な使用方法については、「STEP5 こんなときにはこの設定」をご覧ください。

●テストに失敗したときは

テスト終了後、次のような画面が表示されたときは、メッセージの内容を確認して、再度、ウィザードをやり直してください。



この画面が表示されたときは、WANポートのUTPケーブルが正しく接続されていない可能性があります。接続を確認してください。



この画面が表示されたときは、次のような原因が考えられます。

・ユーザー名かパスワードの入力を間違えている
プロバイダーからの契約書類などを確認して、正しく入力してください。

・モデムと回線とが正しく接続されていない。
モデムとスプリッタ、スプリッタとモジュラーコンセントなどが正しく接続されているか、確認してください。

インターネットに接続してみよう

パソコンと設定ユーティリティーの設定が終わったら、インターネットに接続できるか確認します。

1 本製品に接続したパソコンで、Internet ExplorerなどのWebブラウザーを起動します。

2 Webブラウザーのアドレス入力欄にコレガのホームページアドレス「http://www.corega.co.jp/」を入力し、キーボードの「Enter」キーを押します。

3 ホームページが表示されます。

注意! ご契約のプロバイダーによっては、設定後、インターネットに接続できるようになるまでに、時間がかかる場合があります。詳しくは、ご契約のプロバイダーにお問い合わせください。

もし、インターネットにつながらなかった場合は、本書の「STEP3 トラブルや疑問があったら」(P.41)をご覧ください。

■他のパソコンを接続する場合

本製品に接続したいパソコンが他にもある場合は、「パソコンのネットワーク設定をしよう」(P.19)、「Web ブラウザーの設定をしよう」(P.31)、「パソコン、モデムと本製品を接続する」(P.34) を参照し、同じ手順でパソコンの設定を行い、本製品のLAN側ポートとパソコンをUTPケーブルで接続してください。

STEP3 トラブルや疑問があったら

本製品を使っていて「困ったな」「うまく動かない…」と思ったとき、疑問があったときは、この章で解決方法を探してください。

解決のステップ

①マニュアルや契約書を確認する。管理者に確認する

↓

②この章の Q&A を確認する

＜トラブルは？＞

インターネットに接続できない
- ①プロバイダーとの契約や回線工事は完了していますか？
- ②電源は入っていますか？
- ③モデム⇔インターネット側への回線は正しく接続されていますか？
- ④ケーブル（モデム⇔本製品⇔パソコン）は正しく接続されていますか？
- ⑤その他の接続は大丈夫ですか？
- ⑥パソコンのネットワークアダプターは正しく動作していますか？
- ⑦パソコンのネットワーク設定は正しく設定しましたか？
- ⑧無線 LAN アダプターの設定は正しく設定しましたか？（corega BAR HGWL で無線接続をしている場合）
- ⑨プロバイダーからの入力事項を正しく設定しましたか？
- ⑩ Web ブラウザーの設定は正しいですか？

パソコン同士がつながらない
- ・ファイルやプリンタが利用できるようにネットワーク設定をしましたか？

本製品の設定ユーティリティーが起動しない
本製品のパスワードを忘れた
ファームウェアのアップデートに失敗した

＜疑問は？＞

パソコンの IP アドレスを調べたい
本製品の設定のバックアップを取る。元に戻す
本製品のパスワードを変更したい
最新のファームウェアを入手してアップデートしたい
本製品を再起動する
本製品をリセット（工場出荷時に戻す）する

↓

③コレガのホームページの情報を活用する

↓

④それでも解決しなければ、サポート窓口に問い合わせてみる

マニュアルや契約書を再確認する。管理者に確認する

本書以外にもプロバイダー契約時の設定マニュアル、モデムのマニュアル、パソコンに添付のマニュアルをお手元にご用意ください。ネットワークにつながらない原因は複雑なため、本製品の設定が正しくても、他の設定が間違っていたり、外部の装置の問題で正しくつながらないこともあります。下記の「インターネットに接続できない」の項目をすべて確認してもつながらない場合は、プロバイダー、回線業者、パソコンのメーカーなどに問い合わせてみてください。なお、企業でお使いの方はネットワークの設定がオフィスによって決められていることがあります。接続できない場合はネットワーク管理部門や部内のネットワーク管理者などに確認してください。

Q&A

■インターネットに接続できない

以下の項目については、順番に確認し☑のようにチェックを付けてください。

①プロバイダーとの契約や回線工事は完了していますか？

- **B フレッツまたはフレッツ ADSL ＋対応プロバイダーなどの場合**
  □回線適合調査でサービス可能と認定され、工事は完了したか
  □B フレッツまたはフレッツ ADSL に対応したプロバイダーの工事は完了したか

- **ホールセール業者（イー・アクセス、アッカ・ネットワークスなど）、独自事業者（Yahoo！ BB など）の場合**
  □業者による工事は完了したか

- **CATV サービスの場合**
  □CATV 加入時にインターネット接続の契約も完了したか
  □業者による工事は完了したか

②電源は入っていますか？

各接続機器の電源ランプがついているか、または AC アダプターなどが外れていないかを確認してください。

□ADSL モデム、CATV モデムまたはメディアコンバーターなどに電源が入っているか（AC アダプターが外れていないか）
□本製品に電源が入っているか（専用 AC アダプターが外れていないか）

③モデム⇔インターネット側への回線は正しく接続されていますか？

モデム（ADSL モデム、CATV モデム、メディアコンバーター）とケーブル（電話回線用モジュラーケーブル、同軸ケーブル、光ケーブル）が外れていないかを確認してください。詳しい接続については、モデムやメディアコンバーターに添付のマニュアルをお読みください。

④ケーブル（モデム⇔本製品⇔パソコン）は正しく接続されていますか？

□本製品と ADSL モデム、CATV モデムまたはメディアコンバーターは UTP ケーブルで正しく接続されているか

本製品とモデムが正常に接続されているとWAN側のLink/Act LEDが点灯します。点灯していない場合は、ケーブルを差し直すなどしてみてください。また、モデムにMDI/MDI-Xを切り替えるスイッチがあれば切り替えてみてください。

□本製品とパソコンはUTPケーブルで正しく接続されているか

パソコンと本製品が正常に接続されている場合は、パソコンに電源が入っていると本製品の前面にある各LANポートのLink/Act LEDが点灯します。パソコンにLANボードまたはLANカードがきちんと挿入されているか、LANポートに正しくケーブルが接続されているかも再度確認しましょう。

⑤その他の接続は大丈夫ですか？

・ **ADSLサービスの場合**
□スプリッタの出力ポートの接続は正しいか（電話用とADSLモデム用があります）

ADSLモデム、スプリッタの取扱説明書を参照して確認してください。

・ **CATVサービスの場合**
□分配器の接続は正しいか（TV用とCATVモデム用があります）

CATVモデム、分配器の取扱説明書を参照して確認してください。

⑥パソコンのネットワークアダプターは正しく動作していますか？

□パソコンのネットワークアダプターのドライバの設定は正しいか

「STEP2 ネットワークに接続だ（有線接続の場合）」「パソコンのネットワーク設定をしよう」（P.19）を参照してパソコンのネットワークアダプターが正常に動作していることを再度確認してください。

⑦パソコンのネットワーク設定は正しく設定しましたか？

□パソコンのTCP/IPが正しく設定されているか

「STEP2 ネットワークに接続だ（有線接続の場合）」「パソコンのネットワーク設定をしよう」（P.19）を参照してパソコンのTCP/IPが正しく設定されていることを再度確認してください。

⑧無線LANアダプターの設定は正しく設定しましたか？
（corega BAR HGWLで無線接続をしている場合）

別冊『ワイヤレス設定編』の「STEP2　ネットワークに接続だ（無線接続の場合）」（P.6）を参照して、無線LANアダプターの設定が正しく設定されているか確認してください。

⑨プロバイダーからの設定事項を正しく入力しましたか？

□契約時の設定事項を本製品およびパソコンに正しく入力したか

「STEP2 ネットワークに接続だ（有線接続の場合）」「本製品の設定をしよう」（P.35）で行ったプロバイダーからの設定事項をすべて設定ユーティリティーに正しく入力しないとインターネットには接続できません。パスワードは入力を間違っても画面上で確かめることができませんので、再度入力をやり直してみてください。大文字／小文字が区別される場合もありますので注意してください。

⑩ Web ブラウザーの設定は正しいですか？

□ Web ブラウザーの設定項目は正しいか

Webブラウザーの設定についてはプロバイダー契約時の設定マニュアル、パソコンに添付のマニュアルや OS のヘルプなどを参照してください。

Windows98／95 をお使いで、初めてインターネットに接続した場合、インターネット接続ウィザードが表示されます。その場合、次の手順で設定してください。

1. 「スタート」ボタンー「プログラム」ー「通信」ー「インターネット接続ウィザード」をクリックします。
2. 「インターネット接続を手動で設定するか、ローカルエリアネットワーク（LAN）を使って接続します」をクリックし、「次へ」ボタンをクリックします。
3. 「ローカルエリアネットワーク（LAN）を使って接続します」をクリックし、「次へ」ボタンをクリックします。
4. 「プロキシーサーバーの自動検出」のチェックボックスをクリックしてチェックを外します。
5. 「インターネットメールアカウントの設定」画面で「いいえ」をクリックし、「次へ」ボタンをクリックします。
6. 「完了」ボタンをクリックします。

パソコンをダイヤルアップ環境で利用されていた方は、お使いのOSによってはWebブラウザーの設定を変更する必要があります。プロバイダー契約時の設定マニュアル、パソコンに添付のマニュアルや OS のヘルプなどを参照してください。

■パソコン同士がつながらない

●ファイルやプリンタが利用できるようにネットワーク設定をしましたか？

□ パソコンのネットワーク共有サービスの設定を行う

本製品のLANポートに接続されたパソコン同士がデータのやり取りをするには、共有ネットワークの設定が必要です。複数台のパソコンでデータのやり取りをする場合、Windows では Microsoft ネットワーク共有サービスを使ったワークグループ接続（ピアツーピア接続）が一般的です。設定方法については、各 OS のヘルプを参照してください。

■本製品の設定ユーティリティーが起動しない

●パソコンのネットワーク設定は正しくできていますか？

□ パソコンの TCP/IP が正しく設定されているか

「STEP2 ネットワークに接続だ（有線接続の場合）」「パソコンのネットワーク設定をしよう」（P.19）を参照して、パソコンの TCP/IP が正しく設定されているか再度確認してください。

●無線 LAN アダプターの設定は正しくできていますか？
（corega BAR HGWL で無線接続をしている場合）

別冊『ワイヤレス設定編』の「STEP2　ネットワークに接続だ（無線接続の場合）」（P.6）を参照して、無線 LAN アダプターの設定が正しく設定されているか確認してください。

●プロキシサーバーを使う設定になっていませんか？

□Web ブラウザーのプロキシサーバーの設定は正しいか

「STEP2 ネットワークに接続だ（有線接続の場合）」「Web ブラウザーの設定をしよう」（P.31）を参照して、Web ブラウザーでプロキシサーバーを使用しない設定にしてください。

■本製品のパスワードを忘れた

本製品を工場出荷時の状態に戻してください。パスワードがクリアされます。本製品を工場出荷時の状態に戻す方法は、この章の「本製品を工場出荷時の状態に戻す」（P.50）を参照してください。パスワードを設定したい場合は、この章の「本製品のパスワードを変更したい」（P.47）を参照して、再設定してください。

注意! 本製品を工場出荷時の状態に戻すと、パスワードだけでなく、今まで設定していた情報がすべて消えてしまいますので再度設定しなおしてください。

■ファームウェアのアップデートに失敗した

本製品を工場出荷時の状態に戻してから、再度、ファームウェアのアップデートを行ってください。本製品を工場出荷時の状態に戻す方法は、この章の「本製品を工場出荷時の状態に戻す」（P.50）を参照してください。

注意! 本製品を工場出荷時の状態に戻すと、今まで設定していた情報がすべて消えてしまいます。再設定してください。

■パソコンの IP アドレスを調べたい

本製品よりパソコンに割り当てられた IP アドレスを調べる場合は、次の方法で行ってください。Windows 以外の OS については、OS のヘルプやマニュアルを参照してください。

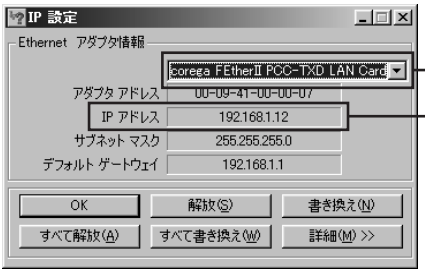
＜Windows Me ／ 98 ／ 95 の場合＞

1 「スタート」ボタン−「ファイル名を指定して実行」をクリックします。

2 「名前」の欄に「winipcfg」と入力して、「OK」ボタンをクリックします。

3 パソコンで使用しているネットワークアダプターを選択します。
パソコンのIPアドレスが表示されます。

正しく表示されない場合は、「解放」ボタンをクリックした後、「すべて書き換え」ボタンをクリックしてください。



＜Windows XP／2000の場合＞

1 「スタート」ボタン−「すべてのプログラム」(Windows 2000の場合は「プログラム」)−「アクセサリ」−「コマンドプロンプト」をクリックします。

2 キーボードから「ipconfig」と入力して、「Enter」キーを押します。

パソコンのIPアドレスが表示されます。

※画面例
「C:¥Documents and Settings¥corega」の部分は、
パソコンの使用環境によって表示が異なります。

3 IPアドレスを確認します。

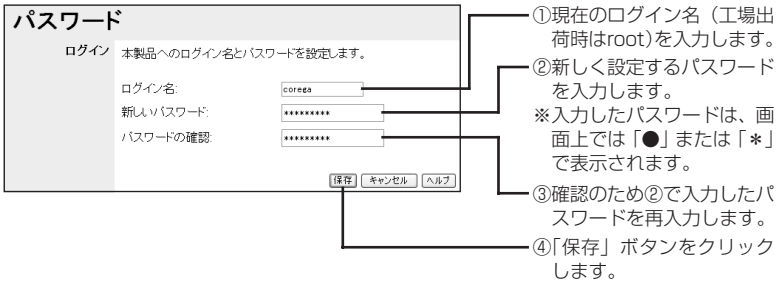
正しく表示されない場合は、「ipconfig　/renew」と入力して、「Enter」キーを押します。

半角スペースを入力します。

■本製品のパスワードを変更したい

本製品のパスワードは、次の手順で変更できます。

1 設定ユーティリティーを起動し、「Password」をクリックします。



2 ネットワークパスワード入力画面が表示されるので、ユーザー名と新しいパスワードを入力して「OK」ボタンをクリックします。

■最新のファームウェアを入手してアップデートしたい

本製品の機能強化のため、予告なくファームウェアのバージョンアップを行うことがあります。最新のファームウェアはコレガのホームページ(http://www.corega.co.jp/)から入手してください。

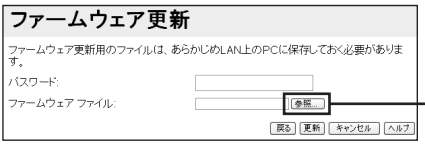
注意! ・ファームウェアをアップデートする前に、本製品の設定内容をメモしておいてください。
・ファームウェアをアップデート中は、他の操作を行ったり、本製品の電源を切ったりしないでください。ファームウェアのアップデートに失敗したり、本製品の故障の原因となる場合があります。

ここでは例として「C:¥corega」に「firm.img」を保存した場合で説明します。

1 設定ユーティリティを起動し、「Status」ボタンをクリックします。

2 「ファームウェア更新」ボタンをクリックします。

3 「参照」ボタンをクリックします。

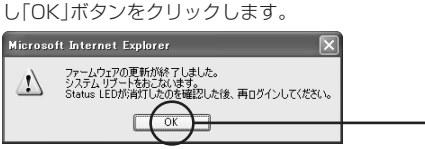


4 「C:¥corega」内の「firm.img」を選択し、「開く」をクリックします。

5 パスワードを設定している場合は、パスワードを入力してから「更新」ボタンをクリックします。

6 次のダイアログボックスが表示されたら「OK」ボタンをクリックします。
ファームウェアの更新処理が開始されます。

7 次のダイアログボックスが表示されたら本体前面のStatus LEDが消灯していることを確認し「OK」ボタンをクリックします。



8 「ウィンドウは、表示中のWebページにより閉じられようとしています。このウィンドウを閉じますか？」と表示されたら「はい」をクリックします。

以上で、ファームウェアの更新は終了です。

■本製品を再起動する

本製品のシステムを再起動します。設定を変更した場合には、再起動して設定内容を反映させてください。「ファームウェアのアップデート」「工場出荷時の状態に戻す」とは異なりますのでご注意ください。
再起動には、次の２つの方法があります。

＜Initスイッチを使う＞

1 本製品の電源が入っている状態で、ゼムクリップなど堅くて先の細いものを使用し、本製品背面にあるInitスイッチを押します。

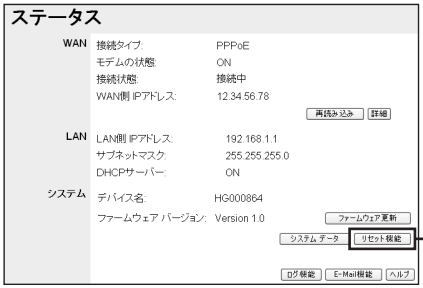
2 Status LEDが点灯し、しばらくして点滅をはじめたら、Initスイッチを離します。

Power LEDが点灯し、Status LEDが消灯すれば、再起動の完了です。

＜設定ユーティリティーを使う＞

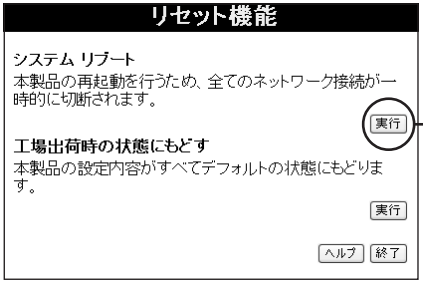
1 設定ユーティリティーを起動し、「Status」ボタンをクリックします。

2 「リセット機能」ボタンをクリックします。



クリックします。

3 「システムリブート」の「実行」ボタンをクリックします。



この「実行」ボタンをクリックします。

システムリブート中に、Power LEDが消え、再び点灯します。その際に「システムリブートをおこないます」と表示されるので、「OK」ボタンをクリックします。

■本製品を工場出荷時の状態に戻す

本製品を工場出荷時の状態に戻すと今まで設定していた情報がすべて消えてしまい、購入したときの設定に戻ります。重要な設定をしている場合は、設定内容を書き残すなど、後で再設定できるようにしておいてください。

工場出荷時の状態に戻すには、次の２つの方法があります。２つの方法に違いはありません。どちらを使ってもかまいません。

＜ Init スイッチを使う＞

1 本製品の電源を切ります。

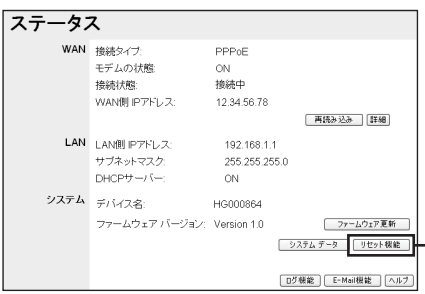
2 本製品背面のInitスイッチを押しながら、電源を入れます。
Initスイッチはゼムクリップなど堅くて先の細いもので押してください。

3 Status LEDが点灯し、しばらくして消えたら、Initスイッチを離します。

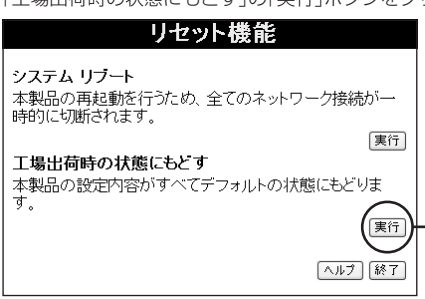
＜設定ユーティリティーを使う＞

1 設定ユーティリティーを起動し、「Status」ボタンをクリックします。

2 「リセット機能」ボタンをクリックします。



3 「工場出荷時の状態にもどす」の「実行」ボタンをクリックします。



工場出荷時の状態に戻している間に、Status LEDが点灯し、しばらくして消え、Power LEDが一瞬点滅します。その際に「工場出荷時の状態にもどします。強制的に中断はしないでください。」と表示されたら、「OK」ボタンをクリックします。

コレガのホームページの情報を活用する

コレガのホームページでは、お客様からのよくあるお問い合わせ情報やネットワークの一般知識を分かりやすく解説しているページを公開中です。困っていることを解決するヒントになります。

（2002年8月現在）

それでも解決しなければ、サポート窓口に問い合わせてみる

次の２種類のサポートメニューを用意しています。

① 巻末の「お問い合わせ用紙」に記入して窓口に FAX
FAX を利用できて、お急ぎの場合はこの方法がお勧めです。「お問い合わせ用紙」をコピーして次の窓口に FAX してください。折り返し回答をさし上げます。
FAX 番号：045-476-6294（通信料はお客様の負担となります）

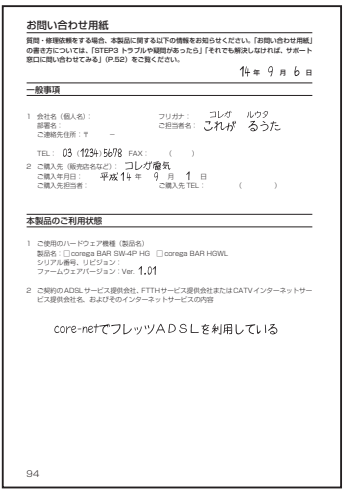
② コレガテクニカルサポート（ご購入後専用ダイアル）に問い合わせ
電話をかける前に、巻末の「お問い合わせ用紙」に記入して、トラブルの内容を整理してください。サポート担当者に整理した内容を伝えることがスムーズな解決への近道になります。
TEL 番号：045-476-6268（通信料はお客様の負担となります）

受付時間：10：00～12：00、13：00～17：00
（祝・祭日を除く月～金、ただし弊社指定休業日は除きます）

問い合わせ番号などが変更される場合があります。最新情報は、コレガのホームページ（http://www.corega.co.jp/）でご確認ください。

■「お問い合わせ用紙」の記入方法

「お問い合わせ用紙」は、お客様のご使用環境で発生した様々な障害の原因を突き止めるためにご記入いただくものです。障害を解決するためにも、製品名をご記入の上、以下の点について情報をお知らせください。記入用紙で書き切れない場合には、別途プリントアウトなどを添付してください。
「どのように記入したらいいかわからない」「どこまで詳しく書いたら…」という方は、次のようなイメージで記入してください。



お問い合わせ用紙

質問・修理依頼をする場合、本製品に関する以下の情報をお知らせください。「お問い合わせ用紙」の書き方については、「STEP3 トラブルや疑問があったら」「それでも解決しなければ、サポート窓口に問い合わせてみる」(P.52) をご覧ください。

14年 9月 6日

一般事項

1 会社名（個人名）：　フリガナ：コレグ ルウタ
部署名：　ご担当者名：これが るうた
ご連絡先住所：〒 －

TEL：03（1234）5678 FAX：（ ）

2 ご購入先（販売店名など）：コレガ電気
ご購入年月日：平成14年 9月 1日
ご購入先担当者：　ご購入先 TEL：（ ）

本製品のご利用状態

1 ご使用のハードウェア機種（製品名）
製品名：□corega BAR SW-4P HG □corega BAR HGWL
シリアル番号、リビジョン：
ファームウェアバージョン：Ver. 1.01

2 ご契約の ADSL サービス提供会社、FTTH サービス提供会社または CATV インターネットサービス提供会社名、およびそのインターネットサービスの内容

core-netでフレッツＡＤＳＬを利用している

94

3 ご使用のパソコン（設定ユーティリティーを起動している、または障害のある）およびLANアダプター（できるだけ詳しくご記入ください）
パソコンのメーカー名：　機種名：
OS とバージョン：　Web ブラウザ：
□Windows（XP Pro ）　✔Internet Explorer（Ver. 6.0 ）
□Mac OS（ ）　□Netscape Navigator（Ver. ）
□その他の OS（ ）　□他のブラウザ（ ）

LAN アダプターまたは無線 LAN アダプターのメーカー名：corega
機種名：PCIer PCI-TXS　ドライバ名とバージョン：Ver.1.0PL0
ハードウェアバージョン：Rev.AI　MAC アドレス：00909909b670

お問い合わせ内容

□別紙あり　✔別紙なし

1 どんなトラブルが発生しましたか？
ルーターの設定画面が表示されなくなった。

2 トラブルはどんなときに発生しますか？
✔常に発生する
□ある特定の動作を行うと発生する
（どのような操作をすると発生するか、記入してください）
□不定期
Internet Explorerの画面で「ページを表示できません」と表示された。

3 トラブルが発生したときに画面にエラーメッセージなどが表示されましたか？表示される場合はその内容を印刷して別紙として添付するか、ここに記入してください。

4 その他、気づいたことがあればお知らせください。

ネットワーク構成図

本製品、パソコン、モデム（コンバータ）、スプリッタ（分配器）、ハブ、ケーブル（UTP ケーブル、光ケーブル、CATV ケーブルなど）などの詳しい接続環境を記入してください。

95

●「本製品のご利用状態」について

・本製品に貼られたラベルに記入されているシリアル番号（S／N）、製品リビジョンコード（Rev）を「お問い合わせ用紙」に記入してください。

（例）

・本製品のファームウェアのバージョンを記入してください。ファームウェアのバージョンは設定ユーティリティーの「Status」の画面で確認できます。
・ご使用になっているパソコンのOS、Webブラウザーの種類／バージョン（Ver.）を記入してください。
・他社製のLANアダプターやユーティリティー、ドライバーなどをご利用の場合もすべてご記入ください。
・ご契約のプロバイダー、回線業者、設定ユーティリティーへの入力情報もすべてご記入ください。
・接続しているパソコンの機種とその環境も可能な限りご記入ください。

●「お問い合わせ内容」について

・どのような症状が発生するのか、それはどのような状況で発生するのかをできる限り具体的に（再現できるように）記入してください。
・エラーメッセージやエラーコードが表示される場合は、表示されるメッセージの内容を出力したものなどを添付またはご記入ください。
・障害などが発生する場合には、本製品と併用されているユーティリティーや、アプリケーションの処理内容もご記入ください。

●「ネットワーク構成図」について

・ネットワークの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図を添付してください。
・他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどをご記入ください。

corega Net-News を購読する

「corega Net-News」は、コレガがお届けするメール配信サービスです。新製品情報やキャンペーン、プレゼント情報など耳よりなニュースをお届けいたします。メール配信サービスはどなたでもご登録いただけます。メール配信サービスをご希望のお客様は、コレガのホームページでご登録ください。

STEP4　設定ユーティリティーを見てみよう

本製品を使っていて「高度な機能を使いこなしたい」「設定ユーティリティーの詳しい情報が知りたい」と思ったときは、この章で項目を探してください。

設定ユーティリティーの使い方

■設定ユーティリティーの全体構成について

- Home…WAN側、LAN側の現在の設定を表示する、設定ユーティリティーを終了する
- Wizard…まずインターネットに接続する
- WAN…インターネット（WAN）側の設定をする
- LAN…パソコン（LAN）側の設定をする
- Wireless…ワイヤレス機能の設定をする（corega BAR HGWLのみ）

ワイヤレス機能の設定については別冊『ワイヤレス設定編』の「付録　ワイヤレス機能の設定」（P.37）を参照してください。

- Password…本製品の設定変更を制限する
- Status…現在の接続状態を表示する
- Advanced
  - アドバンスドインターネット…ネットワークアプリケーションを利用できるようにする
  - バーチャルサーバー…インターネット上にサーバーを公開する
  - ダイナミックDNS…バーチャルサーバーにURLでアクセスできるようにする
  - アクセス制限…パソコンのアクセスを制限する
  - セキュリティ…外部からの不正なアクセスを防ぐ
  - PCデータベース…接続しているパソコンを表示する
  - ルーティング…ルーティングテーブルを設定する
  - リモート設定…インターネット上から本製品の設定をする
  - その他各種設定

■設定画面の各機能

メモ ・以降の説明では、表の入力例を使用した場合の画面例を掲載しています。実際にはご使用の環境に合った値を入力してください。
・各設定画面には、「ヘルプ」ボタンがあります。設定内容について詳しくは、ヘルプを参照してください。

● Home ～ WAN 側、LAN 側の現在の設定を表示する、設定ユーティリティーを終了する～

設定ユーティリティー起動時の画面です。WAN 側、LAN 側の現在の設定が表示されます。また、設定ユーティリティーを終了するときは、必ず「Home」の画面に戻って画面右下の「Logout」ボタンをクリックしてください。

＜ corega BAR SW-4P HG の場合＞

終了するときは、ここをクリックします。

＜ corega BAR HGWL の場合＞

終了するときは、ここをクリックします。

● Wizard　～まずインターネットに接続する～

簡単なインターネット接続の設定を行います。設定の詳細については、「STEP2 ネットワークに接続だ（有線接続の場合）」「本製品の設定をしよう」（P.35）を参照してください。

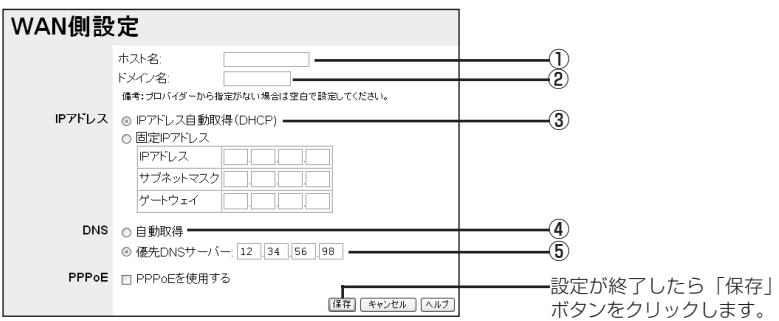
● WAN（WAN 側設定）　～インターネット（WAN）側の設定をする～

WAN側のIP アドレス、デフォルトゲートウェイアドレス、DNSサーバーアドレスの設定、PPPoEの設定などインターネットに接続するための基本となる設定を行います。ご契約されたプロバイダーの接続タイプに合わせて設定してください。「Wizard」で設定済みの場合は、その設定内容が表示されます。

メモ　通常は「Wizard」から設定を行ってください。

1 メニューから「WAN」ボタンをクリックします。

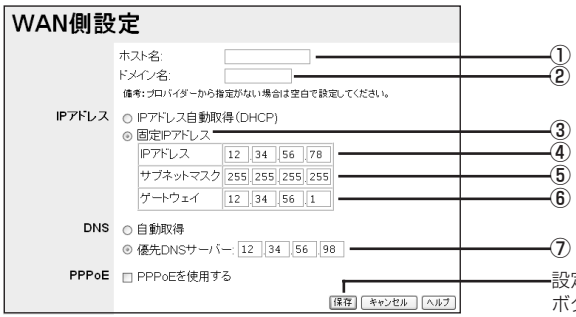
＜DHCP を利用する場合＞



項目名	入力例	説明
①ホスト名	—	プロバイダーからホスト名を指定されている場合、または独自にドメイン名をお持ちの場合に、入力してください。指定がない場合は空欄にしてください。 ※入力可能な文字は、半角の英数字、記号で19文字までです。
②ドメイン名	—	プロバイダーからドメイン名を指定されている場合、または独自にドメイン名をお持ちの場合に、入力してください。指定がない場合は空欄にしてください。 ※入力可能な文字は、半角の英数字、記号で50文字までです。
③IP アドレス自動取得（DHCP）	—	DHCP機能を利用してIPアドレスを自動的に取得する場合、プロバイダーからIPアドレスを自動的に割り当てられる場合（CATV等）に有効にします。 ※工場出荷時は、「有効」になっています。

項目名	入力例	説明
④自動取得	—	プロバイダーよりDNSサーバーを自動設定するような指示があった場合、または特に指示がなかった場合に選択します。 ※工場出荷時は、「有効」になっています。
⑤優先ＤＮＳ サーバー	12. 34. 56. 98	プロバイダーからDNSサーバーのIPアドレス指示された場合に選択し、指定されたIPアドレスを入力します。 ※工場出荷時は、「無効」になっています。

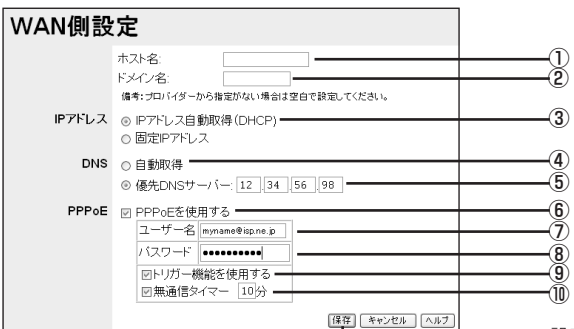
＜固定 IP アドレスで接続する場合＞



項目名	入力例	説明
①ホスト名	—	プロバイダーからホスト名を指定されている場合、または独自にドメイン名をお持ちの場合に、入力してください。指定がない場合は空欄にしてください。 ※入力可能な文字は、半角の英数字、記号で19文字までです。
②ドメイン名	—	プロバイダーからドメイン名を指定されている場合、または独自にドメイン名をお持ちの場合に、入力してください。指定がない場合は空欄にしてください。 ※入力可能な文字は、半角の英数字、記号で50文字までです。
③固定 IP アドレス	—	プロバイダーから固定 IP アドレスを割り当てられている場合（固定 IP サービス等）に有効にします。 ※工場出荷時は、「無効」になっています。

項目名	入力例	説明
④IPアドレス	12. 34. 56. 78	プロバイダーから指定されたIP アドレスを入力します。
⑤サブネットマスク	255. 255. 255. 255	プロバイダーから指定されたサブネットマスクのアドレスを入力します。
⑥ゲートウェイ	12. 34. 56. 1	プロバイダーから指定されたゲートウェイのアドレスを入力します。
⑦優先ＤＮＳ サーバー	12. 34. 56. 98	プロバイダーから割り当てられたDNSアドレスを入力します。 ※工場出荷時は、「無効」になっています。

＜PPPoE 接続の場合＞



設定が終了したら「保存」ボタンをクリックします。

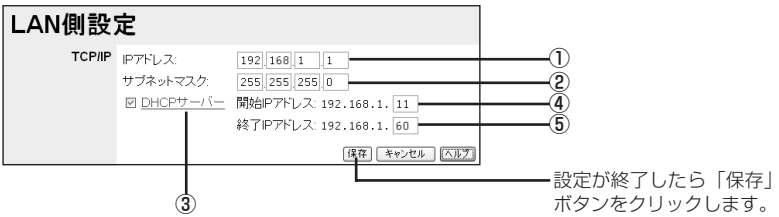
項目名	入力例	説明
①ホスト名	—	プロバイダーからホスト名を指定されている場合、または独自にドメイン名をお持ちの場合に、入力してください。指定がない場合は空欄にしてください。 ※入力可能な文字は、半角の英数字、記号で19文字までです。
②ドメイン名	—	プロバイダーからドメイン名を指定されている場合、または独自にドメイン名をお持ちの場合に、入力してください。指定がない場合は空欄にしてください。 ※入力可能な文字は、半角の英数字、記号で50文字までです。
③IP アドレス自動取得（DHCP）	—	DHCP機能を利用してIPアドレスを自動的に取得する場合、プロバイダーからIPアドレスを自動的に割り当てられる場合（CATV、フレッツ ADSL 等）に有効にします。 ※工場出荷時は、「有効」になっています。

項目名	入力例	説明
④自動取得	―	プロバイダーよりDNSサーバーを自動設定するような指示があった場合、または特に指示がなかった場合に選択します。 ※工場出荷時は、「有効」になっています。
⑤優先ＤＮＳ サーバー	12. 34. 56. 98	プロバイダーからDNSサーバーのIPアドレスを指示された場合に選択し、指定されたIPアドレスを入力します。 ※工場出荷時は、「無効」になっています。
⑥PPPoEを使用する	―	フレッツADSL等で、PPPoE接続を行う必要がある場合に有効にします。 ※工場出荷時は、「無効」になっています。
⑦ユーザー名	myname@isp.ne.jp	プロバイダーより指定されたユーザー名（プロバイダーによって呼び方が異なる場合があります）を入力します。 ※入力可能な文字は、半角の英数字、記号で60文字までです。
⑧パスワード	Password02	プロバイダーより指定されたパスワード（プロバイダーによって呼び方が異なる場合があります）を入力します。パスワードは画面上では「＊」や「●」で表示されます。 ※入力可能な文字は、半角の英数字、記号で16文字までです。
⑨トリガー機能を使用する	―	パソコンからインターネットへの通信が検出されてから接続動作を開始します。本機能を有効にした場合は、「Status」ー「詳細情報」画面から「接続」ボタンをクリックしてインターネットに接続することもできます。 ※工場出荷時は「有効」になっています。
⑩無通信タイマー	10	PPPoE接続で無通信状態になってから自動的にPPPoE接続を切断するまでの時間を設定します。1～99の数値を指定してください。 ※工場出荷時の設定は次のとおりです。 ・Wizardを使用した場合：OFF 接続は切断されません。 ・Wizardを使用せず「WAN側設定」画面で「PPPoE」にチェックを入れた場合：15分

● LAN（LAN 側設定） ～パソコン（LAN）側の設定をする～

本製品のローカル（LAN）側の設定を表示します。

1 メニューから「LAN」ボタンをクリックします。



項目名	入力例	説明
①IP アドレス	192. 168. 1. 1	本製品のローカル（LAN）側に設定する IP アドレスを入力します。特殊な設定以外は工場出荷時の状態で使用することをお勧めします。 ※工場出荷時の設定値は、「192. 168. 1. 1」です。
②サブネットマスク	255. 255. 255. 0	本製品のローカル（LAN）側に設定するサブネットマスクを入力します。 ※工場出荷時の設定値は、「255. 255. 255. 0」です。
③ DHCP サーバー	—	チェックを付けると本製品の DHCP 機能が有効になります。 ※工場出荷時の設定値は、「有効」になっています。
④開始 IP アドレス	192.168. 1. 11	DHCP サーバーで本製品に接続するパソコンに自動的に割り当てられる IP アドレスの開始アドレスを入力します。 ※工場出荷時の設定値は、「192. 168. 1. 11」になっています。
⑤終了 IP アドレス	192. 168. 1. 60	DHCP サーバーで本製品に接続するパソコンに自動的に割り当てられる IP アドレスの終了アドレスを入力します。 ※工場出荷時の設定値は、「192. 168. 1. 60」になっています。

● Wireless　～ワイヤレス機能の設定をする～　（corega BAR HGWL のみ）

本製品のワイヤレス機能の設定ができます。設定方法については、別冊『ワイヤレス設定編』の「付録　ワイヤレス機能の設定」（P.37）を参照してください。

● Password（パスワード） ～本製品の設定変更を制限する～

本製品の設定ユーティリティーにアクセスする際のログイン名とパスワードを設定します。ログイン名とパスワードを設定すると、設定ユーティリティーを起動する際にログイン名とパスワードの入力が必要になります。セキュリティー上、パスワードの設定をおすすめします。パスワードの変更手順については、「STEP3 トラブルや疑問があったら」「本製品のパスワードを変更したい」（P.47）を参照してください。

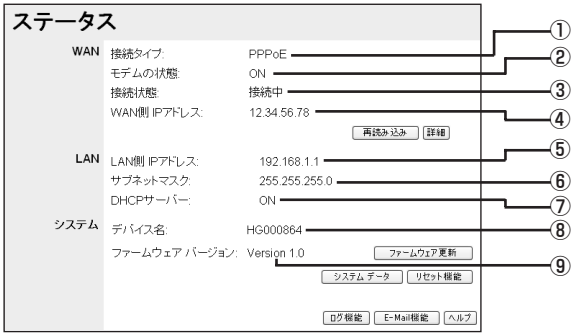
注意! パスワードを忘れると、設定ユーティリティーで設定を変更できなくなりますので、ご注意ください。

● Status（ステータス） ～現在の接続状態を表示する～

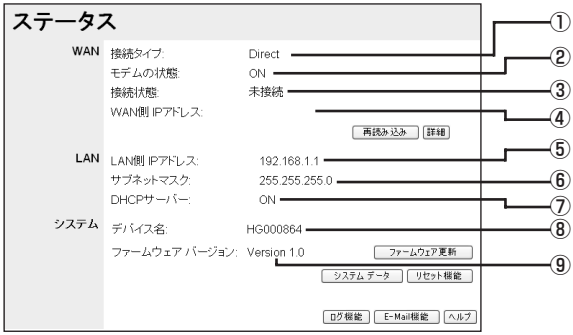
インターネットへの接続状態や本製品のシステム情報などを表示します。利用する接続方式によって表示される画面が異なります。

1 メニューから「Status」ボタンをクリックします。

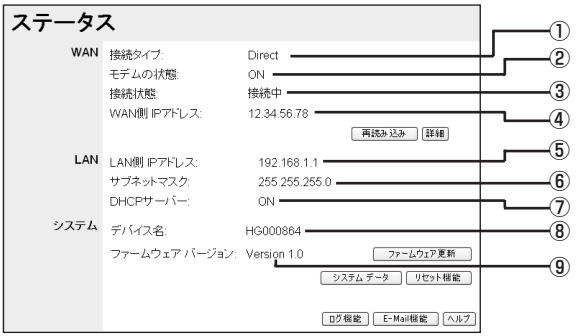
＜ PPPoE 接続の場合＞



＜ DHCP を利用する場合＞



<固定 IP アドレスで接続する場合>



項目名	説明
①接続タイプ	現在、使用されている接続タイプを表示します。
②モデムの状態	現時点での本製品のWANポートとモデム等の機器との接続状態を表示します。 ·「ON」:接続されています。 ·「OFF」:未接続です。
③接続状態	現時点での接続状態を表示します。 ·「接続中」: 正常に動作しています。 ·「待機中」: 無通信時間になっています。 ·「未接続」: インターネットに接続されていません。 ·「失敗」:WAN側の設定が間違っているか、プロバイダー側のサーバーに問題が発生して接続ができない状態です。
④WAN側IPアドレス	本製品の WAN 側の IP アドレスを表示します。
⑤LAN側IPアドレス	本製品の LAN 側の IP アドレスを表示します。
⑥サブネットマスク	本製品の LAN 側のサブネットマスクを表示します。
⑦ DHCP サーバー	本製品のDHCPサーバー機能の状態を表示します。「ON」か「OFF」のいずれかが表示されます。
⑧デバイス名	本製品のデバイス名を表示します。デバイス名は「HGXXXXXX」で表示されます。「XXXXXX」は本製品の LAN 側の MAC アドレスの下 6 桁の数値です。
⑨ファームウェアバージョン	本製品のファームウェアのバージョンを表示します。

ボタンについて

ボタン名	説明
再読み込み	最新の接続状態を表示したいときにクリックします。
詳細	接続状態の詳細を表示したいときにクリックします（本ページ）。
ファームウェア更新	「ファームウェア更新」画面を表示したいときにクリックします。ファームウェアの更新の方法は、「STEP3 トラブルや疑問があったら」「最新のファームウェアを入手してアップデートしたい」（P.47）を参照してください。
システムデータ	システム情報を表示したいときにクリックします。
リセット機能	本製品のシステムリブート、または工場出荷時の状態に戻すときにクリックします。詳しくは、「STEP3 トラブルや疑問があったら」の「本製品を再起動する」（P.49）または「本製品を工場出荷時の状態に戻す」（P.50）を参照してください。
ログ機能	ログ機能の設定を行うときにクリックします（P.67）。
E-mail 機能	E-mail 機能の設定を行うときにクリックします（P.68）。

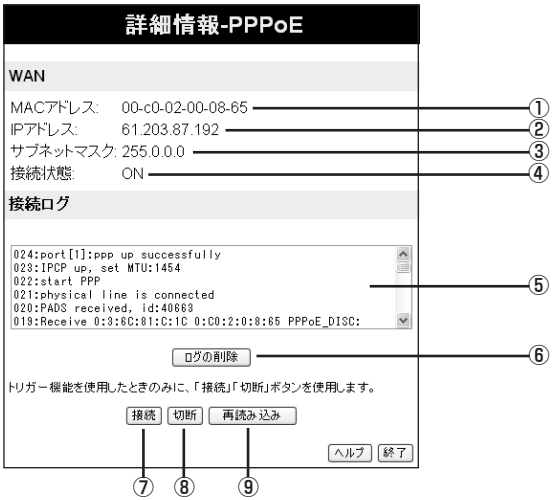
・「詳細情報」画面

インターネットへの接続状態の詳細情報が表示されます。

1 メニューから「Status」ボタンをクリックします。

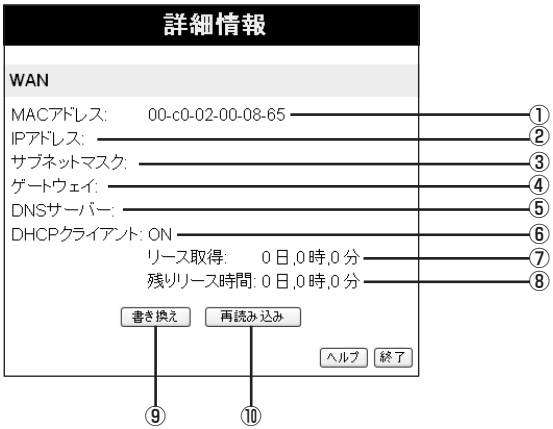
2 「ステータス」画面の「詳細」ボタンをクリックします。
利用する接続方式によって、表示される画面が異なります。

＜PPPoE 接続の場合＞



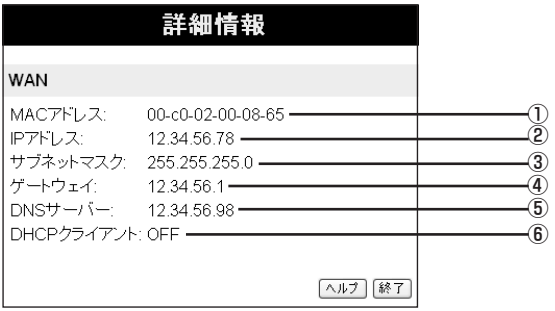
項目名	説明
①MACアドレス	本製品のWAN側のMACアドレスが表示されます。 ※LAN側のMACアドレスは「ステータス」画面の「システム データ」で確認できます。
②IPアドレス	本製品のWAN側のIPアドレスが表示されます。
③サブネットマスク	本製品のWAN側のIPアドレスに使用するサブネットマスクが表示されます。
④接続状態	現在の接続状態を表示します。 ・「ON」：接続中です。 ・「OFF」未接続です。 ※トリガー機能を使用していて、未接続の場合に「接続」ボタンをクリックすると、インターネットに接続できます。接続中の場合、「切断」ボタンをクリックするとインターネット接続を切断します。
⑤接続ログ	インターネットへの接続ログが表示されます。ログメッセージの詳細は、ヘルプを参照してください。
⑥ログの削除	表示されているログを削除します。
⑦接続	接続状態が「OFF」のときにインターネットへの接続を行います。トリガー機能を使用しているときのみ、使用できます。
⑧切断	接続状態が「ON」のときにインターネットへの接続を切断します。トリガー機能を使用しているときのみ、使用できます。
⑨再読み込み	最新のログを表示します。

＜DHCPを利用する場合＞



項目名	説明
①MACアドレス	本製品のWAN側のMACアドレスが表示されます。 ※LAN側のMACアドレスは「ステータス」画面の「システム データ」で確認できます。
②IPアドレス	本製品のWAN側のIPアドレスが表示されます。
③サブネットマスク	本製品のWAN側のIPアドレスに使用するサブネットマスクが表示されます。
④ゲートウェイ	インターネット接続（送信先のネットワーク）に使用するゲートウェイが表示されます。
⑤DNSサーバー	インターネット接続（送信先のネットワーク）に使用するDNSサーバーのアドレスが表示されます。
⑥DHCPクライアント	WAN側のDHCPクライアント機能の状態が「ON」または「OFF」で表示されます。 ・「ON」：自動的に上記の必要な情報がDHCPサーバーから取得できる状態です。 ・「OFF」：上記の必要な情報は固定で設定されています。「書き換え」ボタンは使用できません。
⑦リース取得	IPアドレスを取得した日時が表示されます。
⑧残りリース時間	IPアドレスが解放されるまでの残り時間が表示されます。
⑨書き換え／解放	書き換え：DHCPクライアントが「ON」のときにIPアドレスを取得します。 解放：取得しているIPアドレスを解放します。
⑩再読み込み	最新の情報を表示します。

＜固定 IP アドレスで接続する場合＞



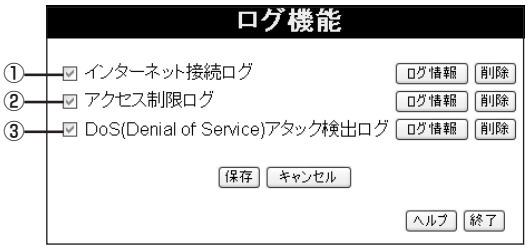
項目名	説明
①MAC アドレス	本製品の WAN 側の MAC アドレスが表示されます。 ※LAN側のMACアドレスは「ステータス」画面の「システム データ」で確認できます。
②IP アドレス	本製品の WAN 側の IP アドレスが表示されます。
③サブネットマスク	本製品の WAN 側の IP アドレスに使用するサブネットマスクが表示されます。
④ゲートウェイ	インターネット接続（送信先のネットワーク）に使用するゲートウェイが表示されます。
⑤DNS サーバー	インターネット接続（送信先のネットワーク）に使用する DNS サーバーのアドレスが表示されます。
⑥DHCP クライアント	WAN側のDHCPクライアント機能の状態が「ON」または「OFF」で表示されます。 ・「ON」： 自動的に上記の必要な情報がDHCPサーバーから取得できる状態です。 ・「OFF」：上記の必要な情報は固定で設定されています。

・「ログ機能」画面

本製品では、インターネット接続やアクセス制限などのログを残すことができます。

1 メニューから「Status」ボタンをクリックします。

2 「ステータス」画面の「ログ機能」ボタンをクリックします。



項目名	説明
①インターネット接続ログ	チェックを付けるとインターネット接続に関してのログを残します。「ログ情報」ボタンをクリックすると現在のログを表示します。「削除」ボタンをクリックするとログが削除されます。 ※工場出荷時は「有効」になっています。
②アクセス制限ログ	チェックを付けるとアクセス制限機能によってブロックされた情報をログに残します。「ログ情報」ボタンをクリックすると現在のログを表示します。「削除」ボタンをクリックするとログが削除されます。 ※工場出荷時は「有効」になっています。
③DoS（Denial of Service）アタック検出ログ	チェックを付けるとDoS（Denial of Service）攻撃を検出したときにログを残します。「ログ情報」ボタンをクリックすると現在のログを表示します。「削除」ボタンをクリックするとログが削除されます。 ※工場出荷時は「有効」になっています。

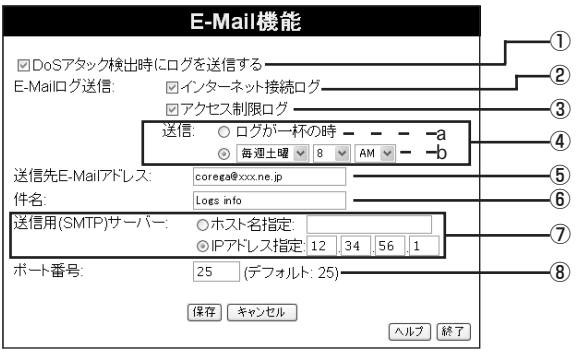
3 上記項目の設定後、「保存」ボタンをクリックして設定を反映します。

・「E-Mail 機能」画面

本製品には、E-Mailによるログ情報の配信機能があります。本機能を使用することでDoS（Denial of Service）攻撃が検出された時に管理者に対してログメールで通知することも可能です。

1 メニューから「Status」ボタンをクリックします。

2 「ステータス」画面の「E-Mail機能」ボタンをクリックします。



項目名	入力例	説明
①DoS アタック検出時にログを送信する	—	チェックを付けると「送信先 E-Mail アドレス」で設定した E-Mail アドレスに DoS（Denial of Service）攻撃を検出したときのログを送信します。「ログ機能」画面で「DoS（Denial of Service）アタック検出ログ」 を有効にしておく必要があります。 ※工場出荷時は「有効」になっています。
②インターネット接続ログ	—	チェックを付けるとインターネット接続に関してのログ情報をE-mailで送信します。「ログ機能」画面で「インターネット接続ログ」を有効にしておく必要があります。 ※工場出荷時は「有効」になっています。
③アクセス制限ログ	—	チェックを付けるとアクセス制限機能を使用してブロックされたログ情報を E-mail で送信します。「ログ機能」画面で「アクセス制限ログ」を有効にしておく必要があります。 ※工場出荷時は「有効」になっています。
④送信	—	ログ情報を送信するタイミングを選択します。ログが一杯になったときに送信する場合は a を選択します。曜日と時間を決めて送信する場合はbを選択して曜日と時間を指定します。 ※ログ情報が増えて本製品のメモリに余裕がなくなった場合、設定よりも前に送信されます。

項目名	入力例	説明
⑤送信先 E-Mail アドレス	corega@xxx.ne.jp	ログ情報の送信先（E-Mail アドレス）を設定します。 ※入力可能な文字は、半角の英数字、記号で32 文字までです。
⑥件名	Logs info	「E-Mail ログ送信」を有効にした場合、E-Mail 送信時の件名を入力します。 ※入力可能な文字は、半角の英数字、記号で29 文字までです。 ※件名に全角文字を入れた場合、受信側で文字化けする場合があります。
⑦送信用（SMTP） サーバー	12. 34. 56. 1	プロバイダーから指定されたメール送信用（SMTP）サーバーのホスト名かIPアドレスを設定します。 ※ホスト名を指定する場合、入力可能な文字は、半角の英数字、記号で49文字までです。
⑧ポート番号	25	送信用（SMTP）サーバーに接続する際に使用するポート番号を設定します。 ※ポート番号は 1 ～ 65534 の半角数字を入力してください。 ※工場出荷時のポート番号は「25」になっています。

3 上記項目の設定後、「保存」ボタンをクリックして設定を反映します。

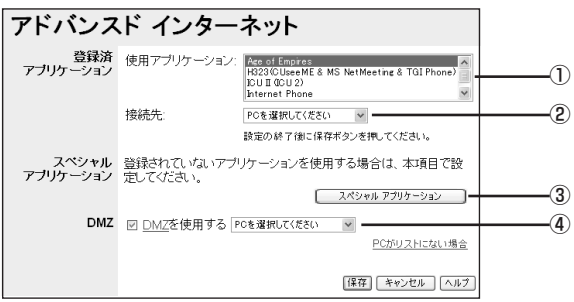
● Advanced　～より高度な機能を設定する～

ネットワークアプリケーションを利用する際のポート設定やセキュリティの設定、バーチャルサーバーの設定など、本製品のより高度な機能の設定ができます。

・アドバンスドインターネット　～ネットワークアプリケーションを利用できるようにする～

ネットワークゲームなど、ファイアーウォールによって、着信データの接続先が不明になってしまうアプリケーションを利用する際のポート設定を行います。おもなアプリケーションについては、あらかじめ入力/出力ポートが設定してあります。

1 メニューから「Advanced」ボタン→「アドバンスドインターネット」をクリックします。



項目名	説明
①登録済アプリケーション	使用するアプリケーションを選択します。ここに表示されるのは、入力/出力ポートが設定済みのアプリケーションです。
②接続先	アプリケーションを利用するパソコンを選択します。利用したいパソコンがリストにない場合は、「PCデータベース」（P.80）で登録してください。
③スペシャルアプリケーション	「登録済アプリケーション」の一覧にないアプリケーションを利用する場合や、アプリケーションが正しく動作しない場合は、「スペシャルアプリケーション」ボタンをクリックして、新しく設定します（P.71）。
④DMZ	DMZ機能を有効にします。「登録済アプリケーション」や「スペシャルアプリケーション」で設定してもアプリケーションが動作しない場合にはDMZ機能を使用します。アプリケーションを利用するパソコンを選択して、「DMZを使用する」にチェックを入れます。 ※DMZを設定したパソコンは、本製品のセキュリティー機能が無効になるため、セキュリティーが弱くなります。DMZ機能は必要な場合のみ有効にしてご使用ください。

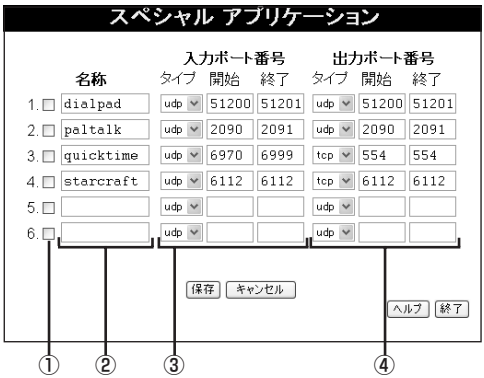
2 上記項目の設定後、「保存」ボタンをクリックして設定を反映します。

・「スペシャルアプリケーション」画面

「アドバンスドインターネット」画面の「登録済アプリケーション」の一覧にないアプリケーションを利用する場合や、アプリケーションが正しく動作しない場合には、個別に設定ができます。

1 メニューから「Advanced」ボタンー「アドバンスドインターネット」をクリックします。

2 「アドバンスドインターネット」画面で「スペシャルアプリケーション」ボタンをクリックします。



項目名		入力例	説明
①チェックボックス		ー	利用するアプリケーションにチェックを入れます。
②名称		dialpad	ネットワークアプリケーションの名前を任意で入力します。 ※入力可能な文字数は、半角の英数字、記号で12文字までです。大文字は小文字に自動的に変換されます。
③入力ポート番号	タイプ	udp	入力ポートのタイプを選択します。
	開始	51200	パソコンがデータを受信する際に使用するポート番号の範囲を入力します。 ※ポート番号には1～65534の半角数字を入力してください。
	終了	51201	
④出力ポート番号	タイプ	udp	出力ポートのタイプを選択します。
	開始	51200	パソコンがデータを送信する際に使用するポート番号の範囲を入力します。 ※ポート番号には1～65534の半角数字を入力してください。
	終了	51201	

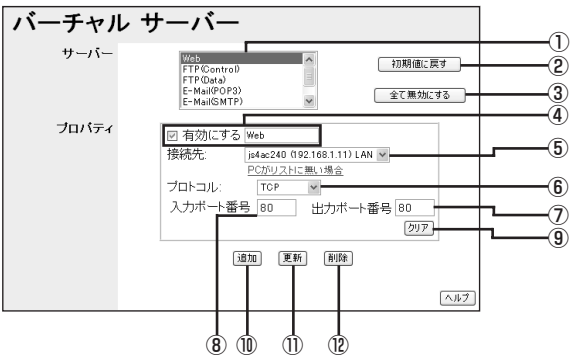
メモ アプリケーションのポート等の設定については、アプリケーションの開発元にお問い合わせください。

3 上記項目の設定後、「保存」ボタンをクリックして設定を反映します。

・バーチャルサーバー　～インターネット上にサーバーを公開する～

インターネット（WAN側）から本製品のLAN上のパソコンにアクセスできるようにします。外部にサーバーを公開できます。

1 メニューから「Advanced」ボタン－「バーチャルサーバー」をクリックします。



項目名	入力例	説明
①サーバー	Web	利用したいサーバーを選択します。
②初期値に戻す	―	選択したバーチャルサーバーの設定を初期設定に戻します。
③全て無効にする	―	一覧に表示されているすべてのバーチャルサーバーを無効にします。
④有効にする	Web	チェックを入れると、選択したバーチャルサーバーが有効になります。新しくサーバーを追加するときは、ここにサーバー名を入力して「追加」ボタンをクリックします。 ※工場出荷時は「無効」になっています。 ※入力可能な文字は、半角の英数字、記号で16文字までです。
⑤接続先	Js4ac240	バーチャルサーバーにするパソコンを選択します。利用したいパソコンがリストにない場合は、「PCデータベース」（P.80）で登録してください。
⑥プロトコル	TCP	開放するプロトコルのタイプを選択します。
⑦出力ポート番号	80	サーバーソフトが使用するポート番号を入力します。 ※ポート番号には1～65534の半角数字を入力してください。

項目名	入力例	説明
⑧入力ポート番号	80	インターネット側からサーバーに接続するためのポート番号を入力します。 ※ポート番号には 1 ～ 65534 の半角数字を入力してください。
⑨クリア	―	プロパティに入力した内容をクリアします。
⑩追加	―	設定したバーチャルサーバーを追加します。
⑪更新	―	選択したバーチャルサーバーの設定内容を更新します。
⑫削除	―	選択したバーチャルサーバーを削除します。

メモ　登録可能なサーバー数は 40 です。

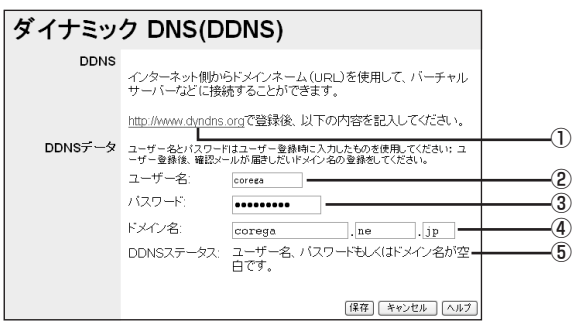
・ダイナミック DNS（DDNS） ～バーチャルサーバーに URL でアクセスできるようにする～

インターネット上からIPアドレスではなくURLを指定してLAN内のバーチャル サーバーに接続できるようにします。ダイナミックIPアドレスのようなIPアドレスが固定されないサービスでも、LAN内のバーチャルサーバーにアクセスできるようになります。

ダイナミックDNSは、以下の手順で設定します。

1 DDNSサイトでサービスに登録手続きをします。
ここでは、例として「http://www.dyndns.org」に登録しています。
登録が完了すると、ユーザー登録確認メールが、E-Mailで送られてきます。

2 メニューから「Advanced」ボタン→「ダイナミックDNS」をクリックし、登録したDDNSユーザー名とパスワード、使用したいドメイン名を入力して「保存」をクリックします。



項目名	入力例	説明
①http://www.dyndns.org	ー	DDNS サイトの一つである「http://www.dyndns.org」へのリンクです。ここでサービスへの登録ができます(サービスは無料です)。
②ユーザ名	corega	DDNSサイト（www.dyndns.org）で登録したユーザ名を入力してください。 ※入力可能な文字は、半角の英数字、記号で15文字までです。
③パスワード	Password 02	DDNSサイト（www.dyndns.org）で登録したパスワードを入力してください。 ※入力可能な文字は、半角の英数字、記号で15文字です。入力したパスワードは画面上では「●」または「*」で表示されます。入力ミスのないように注意してください。
④ドメイン名	corega.ne.jp	DDNSサイト（http://www.dyndns.org）で登録した希望のドメイン名を入力してください。 ※一度取得したドメイン名は変更できません。ドメイン名を変更する必要があれば、DDNS サイトでアカウントを終了し、その後、新たに登録をしなおしてください。 ※使用可能な文字は、半角の英字（小文字）とハイフンです。左側の入力欄は24文字以内、中央の入力欄は16文字以内、右側の入力欄は4文字以内で入力してください。
⑤DDNS ステータス	ー	DDNSサイト（www.dyndns.org）にあるDDNS サーバーからのメッセージを表示します。

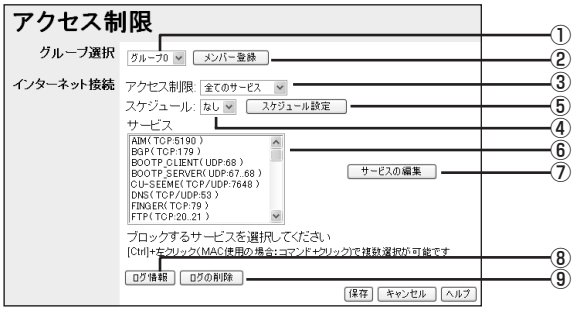
3 設定を保存すると、本製品はその時点で使用しているIPアドレスを自動的にDDNSサイト（http://www.dyndns.org）に記録します。「DDNSステータス」欄で、希望のドメイン名が取得できたかどうか、確認してください。
設定したダイナミックDNSを使用してバーチャルサーバーなどへの接続が可能になります。

注意! DDNS サイト（http://www.dyndns.org）への登録は、お客様の自己責任で行ってください。登録に関して弊社では一切責任を負いませんので、ご了承ください。

・アクセス制限　～パソコンのアクセスを制限する～

ローカル（LAN）側に接続されているパソコンからインターネット（WAN）側へのアクセスを制御します。アクセス制限は、グループごとに設定できます。

1 メニューから「Advanced」ボタンー「アクセス制限」をクリックします。



項目名	入力例	説明
①グループ選択	グループ０	アクセス制限をするグループを選択します。 ※工場出荷時は「グループ0」になっています。
②メンバー登録	―	グループ０以外のグループのメンバーを編集できます（P.76）。
③アクセス制限	全てのサービス	アクセスを制限するかどうかを選択します。 ・「なし」：アクセスは制限されません。 ・「全てのサービス」:全てのサービスがアクセス制限されます。 ・「選択したサービス」:「サービス」で選択したサービスのみ、アクセス制限されます。 ※工場出荷時は「なし」になっています。
④スケジュール	なし	アクセス制限するスケジュールを選択します。「なし」を選択すると常にアクセス制限が有効になります。 ※工場出荷時は「なし」になっています。
⑤スケジュール設定	―	スケジュール内容を設定したいときにクリックします。曜日ごとにアクセス制限をする時間帯を設定できます（P.76）。
⑥サービス	―	アクセス制限をしたいサービスを選択します。
⑦サービスの編集	―	アクセス制限するサービスを設定したいときにクリックします。サービスの追加や削除ができます（P.77）。
⑧ログ情報	―	アクセス制限ログの情報を確認したいときにクリックします。
⑨ログの削除	―	アクセス制限ログの情報を削除したいときにクリックします。

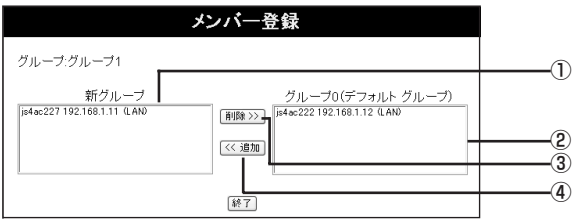
2 上記項目の設定後、「保存」ボタンをクリックして、設定を反映します。

「メンバー登録」画面

アクセス制限をするグループを作成します。

1 メニューから「Advanced」ボタンー「アクセス制限」をクリックします。

2 「アクセス制限」画面で「グループ選択」のメニューから「グループ0」以外のグループを選択し、「メンバー登録」ボタンをクリックします。



項目名	説明
①新グループ	選択したグループのメンバーを表示します。新しくグループを作成したときは、空欄になっています。
②グループ０	デフォルトメンバーを表示します。本製品に接続されているすべてのパソコンが表示されます。
③削除	選択したメンバーを新グループから削除します。
④追加	選択したメンバーを新グループに追加します。

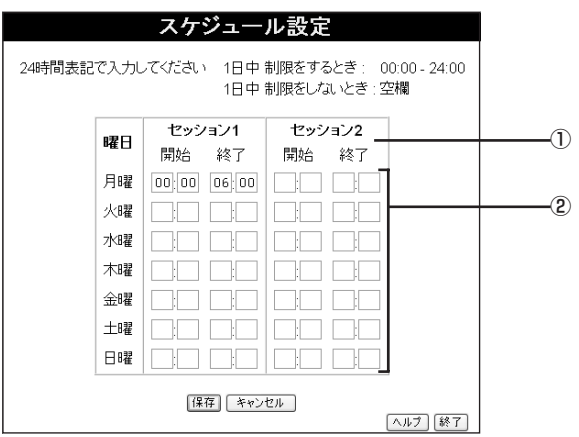
3 上記項目の設定後、「終了」ボタンをクリックして、設定を反映します。

「スケジュール設定」画面

アクセス制限をするスケジュールを設定します。スケジュールは、曜日単位で設定できます。

1 メニューから「Advanced」ボタンー「アクセス制限」をクリックします。

2 「アクセス制限」画面で「スケジュール設定」ボタンをクリックします。



項目名	入力例	説明
①セッション 1、 セッション 2	ー	アクセス制限をする時間帯を選択します。1 日のうちで、2 つの時間帯を設定できます。
②開始、終了	00:00、06:00	アクセス制限の開始時間と終了時間を入力します。

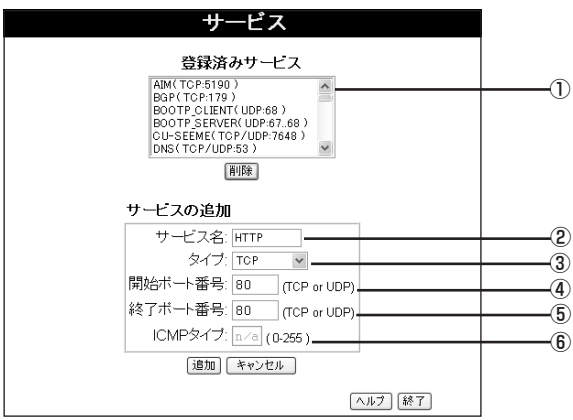
3 上記項目を設定後、「保存」ボタンをクリックすると設定が反映されます。

「サービス」画面

アクセス制限をするサービスの追加、削除を行います。

1 メニューから「Advanced」ボタンー「アクセス制限」をクリックします。

2 「アクセス制限」画面で「サービスの編集」ボタンをクリックします



項目名	入力例	説明
①登録済みサービス	ー	登録済みのサービスの一覧を表示します。削除したいサービスを選択してください。「削除」ボタンをクリックすると、選択したサービスが削除されます。
②サービス名	HTTP	追加登録するサービス名を入力します。 ※入力可能な文字は、半角の英数字、記号で 12 文字までです。
③タイプ	TCP	追加登録するサービスのプロトコルを選択します。
④開始ポート番号	80	サービスが使用するポート番号を入力します。※
⑤終了ポート番号	80	サービスが使用するポート番号を入力します。※
⑥ICMP タイプ	n/a	「タイプ」で「ICMP」を選択した場合に入力します。

※アクセス制限したいサービスの使用するポートがひとつだけの場合は、「開始ポート番号」と「終了ポート番号」に同じポート番号を入力します。
入力例の場合、HTTPは80番ポートなので、開始ポート番号に「80」、終了ポート番号に「80」と入力します。

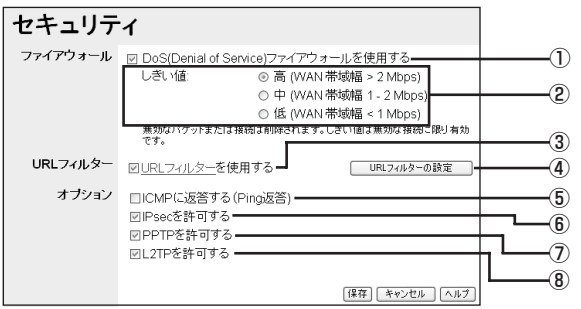
メモ　登録可能なサービス数は40です。

3 各設定項目を入力後、「追加」ボタンをクリックすると、「登録済みサービス」にサービスが追加されます。

・セキュリティ　～外部からの不正なアクセスを防ぐ～

本製品のセキュリティ機能の設定を行います。

1 メニューから「Advanced」ボタンー「セキュリティ」をクリックします。



項目名	説明
①DoS（Denial of Service）ファイアウォールを使用する	有効にすると、DoS (Denial of Service)攻撃への防御ができます。 ※工場出荷時は「有効」になっています。通常はこのまま使用することをお勧めします。
②しきい値	使用しているインターネットの帯域を選択します。 ※工場出荷時は「高」になっています。
③URL フィルターを使用する	有効にすると、指定したURLへの接続を制限します。 ※工場出荷時は「有効」になっていますが、「URLフィルターの設定」には何も登録されていないため、URLのフィルタリングはされません。
④URL フィルターの設定	「URLフィルター」画面が表示されます（P.79）。接続制限をするURLを設定します。
⑤ICMPに返答する	本製品にpingコマンドが送信された場合に返答するかどうかを選択します。 ※工場出荷時は「無効(返答しない)」になっています。
⑥IPsecを許可する	IPsecを使用し、VPN (Virtual Private Networking)のパススルーを可能にするかどうかを選択します。 ※工場出荷時は「許可する（IPsecのパススルーが可能）」になっています。

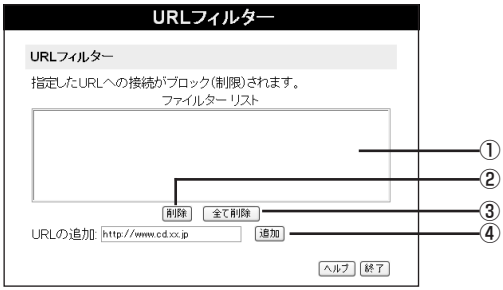
項目名	説明
⑦PPTPを許可する	PPTPを使用し、VPN (Virtual Private Networking) のパススルーを可能にするかどうかを選択します。 ※工場出荷時は「許可する（PPTPのパススルーが可能）」になっています。
⑧L2TPを許可する	L2TPを使用し、VPN (Virtual Private Networking)のパススルーを可能にするかどうかを選択します。 ※工場出荷時は「許可する（L2TPのパススルーが可能）」になっています。

2 上記項目の設定後、「保存」ボタンをクリックして、設定を反映します。

「URL フィルター」画面

1 メニューから「Advanced」ボタン−「セキュリティ」をクリックします。

2 「セキュリティ」画面で「URLフィルターの設定」ボタンをクリックします。



項目名	入力例	説明
①フィルターリスト	−	接続制限をするURLのリストが表示されます。
②削除	−	選択したURLを削除します。
③全て削除	−	フィルターリストに登録されているURLをすべて削除します。
④URLの追加	http:// www.cd.xx.jp	接続制限をしたいURLを入力し、「追加」ボタンをクリックすると、フィルターリストにURLが追加されます。 文字列（例：violence）を入力すると、その文字列を含むURLがアクセス制限されます。 ※入力可能な文字は、半角の英数字、記号で72文字までです。

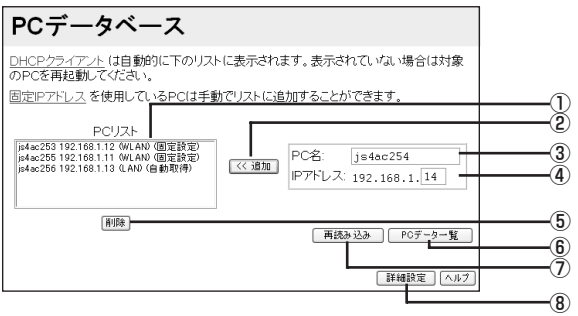
メモ 登録可能なURLの数は50です。

3 上記項目の設定後、「終了」ボタンをクリックして、「URLフィルター」画面を終了します。

・PC データベース　～接続しているパソコンを表示する～

本製品に接続しているパソコンの一覧を表示します。LAN 上のパソコンや固定 IP アドレスの情報を管理できます。
「DHCP クライアント」のパソコンは、一覧に自動的に追加されます。固定IPアドレスを使用しているパソコンは手動で追加します。
バーチャル サーバーや DMZ などを固定 IP アドレスのパソコンで設定する際は、かならず PC リストに手動で登録してください。

1 メニューから「Advanced」ボタンー「PCデータベース」をクリックします。



項目名	入力例	説明
①PC リスト	－	現在、接続されているパソコンもしくはネットワーク機器を表示します。 ※DHCPクライアントは、自動的にPCリストに表示されます。表示されていない場合は、対象のパソコンを再起動してください。固定 IP アドレスを使用しているパソコンは、手動でリストに追加します。 ※ corega BAR HGWL に無線で接続しているパソコンは、PCリスト中で「WLAN」と表示されます。 ※ corega BAR HGWL では、パソコンをルーターから外して「再読み込み」ボタンをクリックしても、PCリストが更新されません。ルーターをリセットまたは電源を入れ直すと、PC リストが更新されます。
②追加	－	PC 名と IP アドレスを入力したパソコンを PC リストに追加します。
③PC 名	Js4ac227	PCリストに追加するパソコンの任意のコンピュータ名を入力します。 ※入力可能な文字は半角英数字、記号で 15 文字までです。
④IP アドレス	192.168.1.12	PC リストに追加するパソコンの IP アドレスを入力します。

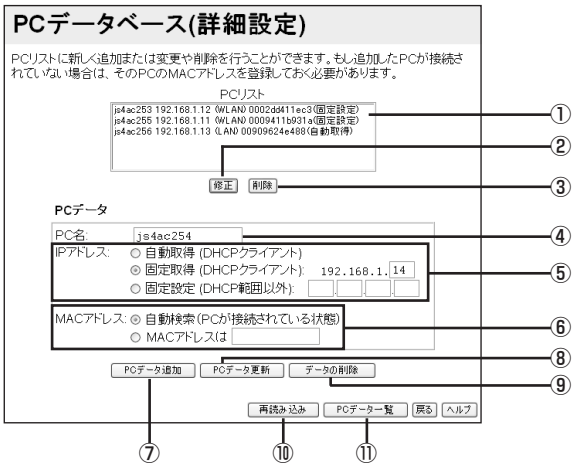
項目名	入力例	説明
⑤削除	−	選択したパソコンをPCリストから削除します。
⑥ PC データ一覧	−	PCデータベースの詳細を表示したいときにクリックします。
⑦再読み込み	−	PCリストの表示を更新したいときにクリックします。
⑧詳細設定	−	PCデータの詳細設定を行います(本ページ)。

「PC データベース（詳細設定)」画面

接続されているパソコンのデータの詳細設定ができます。

1 メニューから「Advanced」ボタン−「PCデータベース」をクリックします。

2 「PCデータベース」画面で「詳細設定」ボタンをクリックします。



項目名		入力例	説明
①PC リスト		—	接続されているパソコンの一覧を表示します。 ※ corega BAR HGWL に無線で接続しているパソコンは、PCリスト中で「WLAN」と表示されます。 ※ corega BAR HGWL では、パソコンをルーターから外して「再読み込み」ボタンをクリックしても、PCリストが更新されません。ルーターをリセットまたは電源を入れ直すと、PC リストが更新されます。
②修正		—	PCリストから設定を変更したいパソコンを選択し「修正」をクリックするとPCデータにパソコンのデータが表示されます。
③削除		—	PCリストから削除したいパソコンを選択し「削除」をクリックするとPC リストからパソコンが削除されます。
④PC 名		—	パソコンのホスト名と同じ名前を入力します。 ※入力可能な文字は半角英数字、記号で15文字までです。
⑤IPアドレス	自動取得（DHCP クライアント）	—	パソコン側でIPアドレスを自動取得する設定にしている場合に選択します。IPアドレスは本製品が自動的に割り当てます。
	固定取得（DHCP クライアント）	固定取得 192. 168. 1. 14	パソコン側でIPアドレスを自動取得する設定にしている場合に選択します。IPアドレスは本製品が自動的に割り当てますが、ここで指定したIPアドレスが割り当てられます。
	固定設定（DHCP範囲以外）	—	パソコン側で固定IPアドレスを設定している場合に選択します。
⑥MACアドレス	自動検索	—	パソコンがLANに接続されている場合に、本製品が自動的にパソコンのMACアドレスを検索する設定にする場合に選択します。
	MAC アドレスは	—	パソコンのMACアドレスを直接設定する場合に選択して、MACアドレスを入力します。
⑦PC データ追加		—	PCデータを入力したパソコンをPCリストに追加します。
⑧PC データ更新		—	選択したパソコンのデータベースを更新します。
⑨データの削除		—	選択したパソコンのデータベースを削除します。
⑩再読み込み		—	PC データベースの表示を更新します。
⑪PC データ一覧		—	エントリー可能なPCデータを一覧表示します。

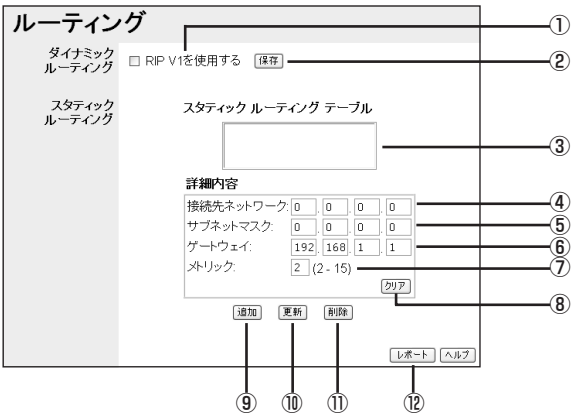
メモ 「PC データ一覧」に登録可能なパソコン数は 100 です。

・ルーティング　～ルーティングテーブルを設定する～

LAN 上に他のルーターまたはゲートウェイがある場合は、ルーティングの設定が必要です。通常は、RIP を使用することをお勧めします。

メモ　スタティック ルーティングテーブルを使用する際は、ルーティングの機能について理解する必要があります。詳しくは、ネットワーク管理者に確認してください。

1 メニューから「Advanced」ボタン－「ルーティング」をクリックします。



項目名	入力例	説明
①RIP V1 を使用する	－	本製品で RIP を有効にするかどうかを選択します。本製品では RIP V1 のみをサポートしています。
②保存	－	RIPの設定を保存します（スタティック ルーティングテーブルには変更はありません）。 ※工場出荷時は「無効」になっています。
③スタティックルーティングテーブル	－	設定されているスタティックルーティングテーブルの一覧を表示します。
④接続先ネットワーク	0.0.0.0	スタティックルーティングテーブルを設定する際の接続先ネットワークの IP アドレスを入力します。
⑤サブネットマスク	0.0.0.0	スタティックルーティングテーブルを設定する際の接続先ネットワークのサブネットマスクを入力します。
⑥ゲートウェイ	192.168.1.1	スタティックルーティングテーブルを設定する際の接続先と通信するために使用するゲートウェイの IP アドレスを入力します。

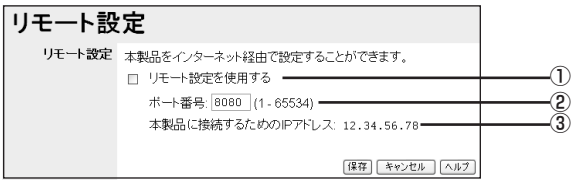
項目名	入力例	説明
⑦メトリック	2	接続先ネットワークにデータが届くまでに通過するルーターの数です。 2～15の間で設定してください。
⑧クリア	−	「詳細内容」欄の入力内容をクリアします。
⑨追加	−	「詳細内容」欄の入力内容をスタティック ルーティングテーブルに追加します。
⑩更新	−	「詳細内容」欄の設定内容でスタティック ルーティングテーブルを更新します。
⑪削除	−	選択したスタティック ルーティングテーブルを削除します。
⑫レポート	−	設定されているすべてのスタティック ルーティングテーブルのリストを表示します。

メモ　登録可能なルーティングテーブル数は100です。

・リモート設定　～インターネット上から本製品の設定をする～

本製品をインターネット経由で設定できるようにします。

1 メニューから「Advanced」ボタン→「リモート設定」をクリックします。

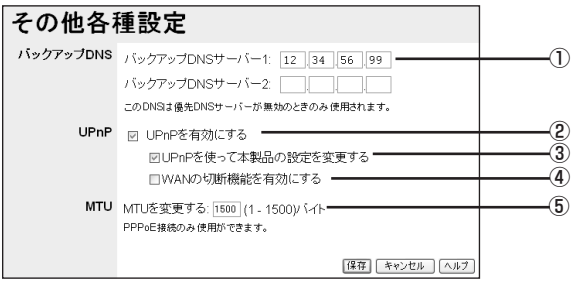


項目名	入力例	説明
①リモート設定を使用する	―	チェックを付けるとインターネット側(WAN側）から本製品の設定を可能にします。 ※工場出荷時は「無効」になっています。
②ポート番号	8080	インターネット側から本製品にアクセスする際のポート番号を指定します。1～65534の範囲でポート番号を入力してください。インターネット側（WAN側）から接続する際は、下記のようにIPアドレスの後ろにポート番号を指定します。 http:// 本製品のWAN側IPアドレス:ポート番号 ※工場出荷時は「8080」になっています。
③本製品に接続するためのIPアドレス	―	インターネット側（WAN側）から本製品の設定をする際に指定するIPアドレス（プロバイダーによって割り当てられたもの)が表示されます。

2 上記項目を設定後、「保存」ボタンをクリックすると設定が反映されます。

注意! ダイナミックIPアドレスを使用している場合、本製品に接続するためのIPアドレスが常に変わってしまいます。 接続する前に、本製品のWAN側IPアドレスを確認してください。

1 メニューから「Advanced」ボタンー「その他各種設定」をクリックします。



項目名	入力例	説明
①バックアップDNS	12. 34. 56. 99	DNS（ドメインネーム サーバー）のIPアドレスを入力します。優先DNSサーバーが利用できない場合に、ここで入力したDNSサーバーが使用されます。 プロバイダーに指定された場合に入力してください。指定されない場合は空欄にしてください。
②UPnPを有効にする	ー	チェックを付けるとUPnP機能を有効にします。有効にすると、自動的にLANに接続された装置を検出し認識します。 ※工場出荷時は「有効」になっています。
③UPnPを使って本製品の設定を変更する	ー	チェックを付けるとUPnP機能を使用して、本製品の設定（バーチャルサーバー機能）を変更することができます。 ※UPnPを使用して本製品を設定するには、OSがUPnPに対応している必要があります。詳しくは、ご使用のOSのメーカーにお問い合わせください。 ※工場出荷時は「有効」になっています。
④WANの切断機能を有効にする	ー	チェックを付けるとUPnP機能を使用してWAN（インターネット）を切断することができます。 ※工場出荷時は「無効」になっています。
⑤MTUを変更する	1500	MTUの値を変更します。PPPoE接続の場合のみ、設定できます。プロバイダーから指示があったときのみ変更してください。1～1500の間で設定してください。 ※工場出荷時の設定値は「1500」です。

2 上記項目の設定後、「保存」ボタンをクリックして、設定を反映します。

STEP5 こんなときにはこの設定

ネットワークゲームや音声／ビデオチャットなど、ネットワーク上から各パソコンに直接アクセスする必要がある場合は、本製品の設定を変更する必要があります。この章では、設定方法について説明します。

オンライン（ネットワーク対戦）ゲームを遊び倒しちゃおう

注意! 回線業者によっては、ネットワークゲームに対応していない場合がありますので、ご注意ください。

ゲームサーバーとデータの送受信を行うポートを本製品に設定する必要があります。

● UPnP に対応したネットワークゲームの場合

本製品はUPnPに対応しているので、UPnPに対応したネットワークゲームであれば、自動的に本製品の設定が行われます。
設定ユーティリティーで次の設定を行います。

1 「その他各種設定」で、「UPnPを有効にする」「UPnPを使って本製品の設定を変更する」を「有効」にします。
詳しくは、「STEP4 設定ユーティリティーを見てみよう」「その他各種設定」(P.86)を参照してください。

● UPnP に対応していないネットワークゲームの場合

UPnP に対応していないネットワークゲームの場合は、次のいずれかの方法で設定します。

・登録済みのネットワークゲームを使う場合

本製品では、ネットワークゲームをより手軽に使えるように、いくつかのネットワークゲームについてはあらかじめポート設定をしてあります。
設定ユーティリティーで次の設定を行います。

1 「アドバンスドインターネット」の「登録済みアプリケーション」から使いたいネットワークゲームを選択します。

2 「アドバンスドインターネット」の「接続先」でネットワークゲームをするパソコンを選択します。
詳しくは、「STEP4 設定ユーティリティーを見てみよう」「アドバンスドインターネット」(P.70)を参照してください。

・登録されていないネットワークゲームを使いたい場合

使用するポート番号、タイプが分かっている場合は、新しく登録できます。
設定ユーティリティーで次の設定を行います。

1 「アドバンスドインターネット」の「スペシャルアプリケーション」でネットワークゲームが使用するポート番号とタイプを設定します。
詳しくは、「STEP4 設定ユーティリティーを見てみよう」「「スペシャルアプリケーション」画面」(P.71)を参照してください。

メモ ネットワークゲームが使用するポート番号、タイプについては、各ゲームの製造元にお問い合わせください。

・ネットワークゲームが使用するポート番号が分からない、または毎回変更される場合

DMZ 機能を使います。設定ユーティリティーで次の設定を行います。

1 「アドバンスドインターネット」の「DMZ」でネットワークゲームするパソコンを選択します。
詳しくは、「STEP4 設定ユーティリティーを見てみよう」「アドバンスドインターネット」(P.70)を参照してください。

注意! DMZ機能の対象となっているパソコンは、本製品のファイアーウォール機能が無効になるため、セキュリティが弱くなります。DMZ機能は、必要な場合のみ有効にしてご使用ください。

音声／ビデオチャットなどのツールを使う

ここでは、代表的なソフトとして、NetMeeting 、MSN Messenger、Windows Messenger を利用する場合の設定を説明しています。

本製品では、Microsoft Windows Messenger、MSN Messenger Ver.4.6 以降および NetMeetingに対応しています。各アプリケーションの使い方は、ヘルプやホームページを参照してください。

● NetMeeting

設定ユーティリティーで次の設定を行います。

1 「アドバンスドインターネット」の「登録済アプリケーション」から「H323 (C Usee ME &MS NetMeeting &TGI Phone)」を選択します。

2 「アドバンスドインターネット」の「接続先」でNetMeetingを使うパソコンを選択します。詳しくは、「STEP4 設定ユーティリティーを見てみよう」「アドバンスドインターネット」(P.70)を参照してください。

この方法で利用できない場合は、DMZ機能を使います。設定ユーティリティーで次の設定を行います。

1 「アドバンスドインターネット」の「DMZ」でネットワークゲームするパソコンを選択します。詳しくは、「STEP4 設定ユーティリティーを見てみよう」「アドバンスドインターネット」(P.70)を参照してください。

注意! DMZ機能の対象となっているパソコンは、本製品のファイアーウォール機能が無効になるため、セキュリティが弱くなります。DMZ機能は、必要な場合のみ有効にしてご使用ください。

● Windows Messenger、MSN Messenger（Ver.4.6 以降）

本製品はUPnP に対応しているので、Windows Messenger、MSN Messenger を利用する際は、自動的に本製品の設定が行われます。
設定ユーティリティーで次の設定を行います。

1 「その他各種設定」で、「UPnPを有効にする」「UPnPを使って本製品の設定を変更する」を「有効」にします。
詳しくは、「STEP4 設定ユーティリティーを見てみよう」「その他各種設定」(P.86)を参照してください。

注意! Windows Messenger、MSN Messenger、NetMeeting は 1 台のパソコンでのみ使用できます。

製品仕様

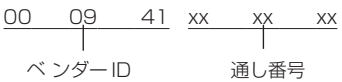
	製品名		corega BAR SW-4P HG	corega BAR HGWL
ネットワークインターフェース	WAN 側	100BASE-TX/10BASE-T	1 ポート	1 ポート
		サポート規格	IEEE802.3（10BASE-T）、IEEE802.3u（100BASE-TX Fast Ethernet）	IEEE802.3（10BASE-T）、IEEE802.3u（100BASE-TX Fast Ethernet）
	LAN 側	100BASE-TX/10BASE-T	4 ポート（全ポート MDI/MDI-X 自動認識）	4 ポート（全ポート MDI/MDI-X 自動認識）
		サポート規格	IEEE802.3（10BASE-T）、IEEE802.3u（100BASE-TX Fast Ethernet）、IEEE802.3x（Flow conntrol）	IEEE802.3（10BASE-T）、IEEE802.3u（100BASE-TX Fast Ethernet）、IEEE802.3x（Flow conntrol）
		Auto-MDI/MDI-X	LAN 側のみ対応	LAN 側のみ対応
		アクセス方式	CSMA/CD	CSMA/CD
		データ伝送方式	10Mbps/100Mbps	10Mbps/100Mbps
		スイッチング方式	ストア＆フォワード方式	ストア＆フォワード方式
		バッファ容量	1Kbyte	1Kbyte
ハードウェア構成	本体仕様	適用規格	EMI 規格 VCCI Class B	EMI 規格 VCCI Class B
		定格入力電圧	AC100V	AC100V
		平均消費電流	750mA（最大 800mA）	750mA（最大 800mA）
		平均消費電力	9W（最大 9.6W）	9W（最大 9.6W）
	本体使用環境条件	保管時温度差	− 20 ～ 60℃	− 20 ～ 60℃
		保管時湿度	95%以下（ただし結露なきこと）	95%以下（ただし結露なきこと）
		動作時温度	0 ～ 40℃	0 ～ 40℃
		動作時湿度	80%以下（ただし結露なきこと）	80%以下（ただし結露なきこと）
	本体外形寸法（突起物含まず）		170mm（W）× 147mm（D）× 27mm（H）	170mm（W）× 147mm（D）× 27mm（H）
	本体重量（AC アダプタ含まず）		575g	575g
基本機能	ルーティング方式		スタティック / ダイナミックルーティング（RIP1）	スタティック / ダイナミックルーティング（RIP1）
	ルーティング対象プロトコル		IP	IP
	設定方式		Web ブラウザー	Web ブラウザー
	初期化方式		Init スイッチ /Web ブラウザー	Init スイッチ /Web ブラウザー
	ファームウェア更新方法		Web ブラウザー	Web ブラウザー
	対応プロトコル		DHCP, PPPoE, PPTP, NTP, SMTP	DHCP, PPPoE, PPTP, NTP, SMTP
	対応 OS		Windows95/98/Me/NT4.0/2000/XP、Mac,Linux,Unix（TCP/IP をサポートする OS）	Windows95/98/Me/NT4.0/2000/XP、Mac,Linux,Unix（TCP/IP をサポートする OS）
各種機能	アドレス変換		NAT/IP マスカレード	NAT/IP マスカレード
	DHCP サーバー / クライアント		サーバー（LAN 側最大 253 クライアント）、クライアント（WAN 側）	サーバー（LAN 側最大 253 クライアント）、クライアント（WAN 側）
	UPnP		○	○
	NetMeething（同時使用可能数）		○（1）	○（1）
	MSN Messenger（同時使用可能数）		○（1）	○（1）
	Windows Messenger（同時使用可能数）		○（1）	○（1）
	VPN		○ PPTP/IPSec/L2TP（共にパススルー）	○ PPTP/IPSec/L2TP（共にパススルー）
	PPPoE（同時に使用可能なアカウント数）		○（1）	○（1）
	セキュリティー		○ IP/Port（グループ単位でのフィルタリングも可能）	○ IP/Port（グループ単位でのフィルタリングも可能）
	DMZ		○	○
	バーチャルサーバー		○	○
	ログ記録		○（メール転送機能あり）	○（メール転送機能あり）
	ファイアーウォール		○（DoS アタック）	○（DoS アタック）

製品名		corega BAR SW-4P HG	corega BAR HGWL
無線機能	国際規格	−	IEEE 802.11 、IEEE 802.11b
	国内規格	−	RCR STD- 33 、ARIB STD- T66
	周波数帯域	−	2.4～2.497GHz
	伝送方式	−	直線拡散型スペクトラム拡散方式（DS- SS 方式）
	アクセス制御方式	−	CSMA/CA
	データ転送速度	−	11/5.5/2/1 Mbps 自動切り替え
	サービスエリア	−	屋外 150m 、屋内 50m（11Mbps 通信時は、屋外 60m、屋内 30m ）
	スクランブル処理	−	WEP(64/128bit)、ESSID
	アンテナダイバーシティー	−	空間ダイバーシティー
	チャンネル	−	14 チャンネル
	対応モード	−	アクセスポイントモード
	取得承認	−	EMI 規格 VCCI クラス B 、技術基準適合認定

※ この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI ）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書にしたがって正しい取り扱いをしてください。

MAC アドレスについて

ご契約されているプロバイダーやインターネットサービスによっては、インターネットに接続できる機器を事前に申請する必要があります。その場合、CATV/ADSL モデムに直接接続するネットワーク機器（本製品も含むパソコンなど）のMAC アドレスをプロバイダーに対して事前申請してください。
本製品のWAN 側のMAC アドレスは本体底面に記入されています。LAN 側のMAC アドレスについては、設定ユーティリティーのシステム情報で確認できます。MAC アドレスは、下記の6 バイト（48 ビット）によって構成されており、本製品の内部に書き込まれているため、ユーザーが変更することはできません。



・ ベンダーID
LAN ベンダー（LAN 機器を製造しているメーカー）がI EEE に申請することにより得られる識別番号です。
・ 通し番号
この番号は、当社が製品を識別するために割り当てたものです。この通し番号と本製品の「シリアル番号シール」の番号に関連はありません。

保証と修理について

■保証について

別紙の「製品保証規定」を必ずお読みになり、本製品を正しくご使用ください。無条件で本製品を保証するということではありません。正しい使用方法で使用した場合のみ、保証の対象となります。また、物理的な破損等が見受けられる場合は、保証の対象外となりますので予めご了承ください。本製品の保証期間については、保証書に記載されている保証期間をご覧ください。

■修理について

故障と思われる現象が生じた場合は、まず取扱説明書を参照して、設定や接続が正しく行われているかを確認してください。現象が改善されない場合は、「お問い合わせ用紙」をコピーしたものに必要事項をご記入の上、保証書および購入日の証明できるもののコピー（レシート等可）を添付し、弊社サポートセンター宛てに製品（付属品一式を含む）を送付ください。製品を送付する際は、以下の点にご注意ください。
・ 修理期間中の代替機等は弊社では用意しておりませんので、予めご了承ください。
・ 保証書に販売店の押印がない場合は、保証期間内であっても有償修理になる場合があります。
・ 製品購入日の証明ができない場合、無償修理の対象となりませんのでご注意ください。
・ 弊社サポートセンターへ製品を送付する際の送付料金につきましては、お客様のご負担とさせていただきます。尚、運送中の故障や事故に関しては、弊社はいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
・ 宅配便などの送付状の控えが残る方法で送付願います。普通郵便による送付は固くお断りいたします。
・ 修理期間は、製品到着後、約 10 日程度（弊社営業日数）を予定しております。

●製品送付先

〒 222- 0033 横浜市港北区新横浜 1- 19- 20
（株）コレガ corega サポートセンター宛

ユーザーサポートについて

障害回避などのユーザーサポートは、巻末の「お問い合わせ用紙」をコピーしたものに必要事項をご記入の上、下記の番号まで FAX してください。できるだけ電話による直接の問い合わせは避けてください。FAX によって詳細な情報を送付していただくほうが、電話による問い合わせよりも遥かに早く問題を解決することができます。
記入内容の詳細、送付先については、本書の「STEP3　トラブルや疑問があったら」「それでも解決しなければ、サポート窓口に問い合わせてみる」（P.52）をご覧ください。

おことわり

- 本書は、株式会社コレガが作成したもので、全ての権利を弊社が保有しています。弊社に無断で本書の一部または全部をコピーすることを禁じます。
- 予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがありますがご了承ください。
- 改良のため製品の仕様を予告なく変更することがありますがご了承ください。
- 本製品の内容またはその仕様により発生した損害については、いかなる責任も負いかねますのでご了承ください。

©2002 株式会社コレガ
corega は、株式会社コレガの登録商標です。
Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
フレッツは、東日本電信電話株式会社および西日本電信電話株式会社の登録商標です。
その他、この文書に掲載しているソフトウェアおよび周辺機器の名称は各メーカーの商標または登録商標です。
2002 年 7 月 Rev.A　初版
2002 年 9 月 Rev.B　corega BAR HGWL の記載追加

お問い合わせ用紙

質問・修理依頼をする場合、本製品に関する以下の情報をお知らせください。「お問い合わせ用紙」の書き方については、「STEP3 トラブルや疑問があったら」「それでも解決しなければ、サポート窓口に問い合わせてみる」（P.52）をご覧ください。

年　　月　　日

一般事項

1　会社名（個人名）：　　フリガナ：
　部署名：　　ご担当者名：
　ご連絡先住所：〒　　－

　TEL：　　（　　）　　FAX：　　（　　）

2　ご購入先（販売店名など）：
　ご購入年月日：　　年　　月　　日
　ご購入先担当者：　　ご購入先 TEL：　　（　　）

本製品のご利用状態

1　ご使用のハードウェア機種（製品名）
　製品名：□corega BAR SW-4P HG　□corega BAR HGWL
　シリアル番号、リビジョン：
　ファームウェアバージョン：Ver.

2　ご契約のADSLサービス提供会社、FTTHサービス提供会社またはCATVインターネットサービス提供会社名、およびそのインターネットサービスの内容

3 ご使用のパソコン（設定ユーティリティーを起動している、または障害のある）およびLANアダプター（できるだけ詳しくご記入ください）

パソコンのメーカー名：　　機種名：

OSとバージョン：　　Webブラウザ：

□Windows （　　）　□Internet Explorer（Ver .　　）

□Mac OS （　　）　□Netscape Navigator（Ver .　　）

□その他のOS （　　）　□他のブラウザ（　　）

LANアダプターまたは無線LANアダプターのメーカー名：

機種名：　　ドライバ名とバージョン：

ハードウェアバージョン：　　MACアドレス：

お問い合わせ内容

□別紙あり　　□別紙なし

1 どんなトラブルが発生しましたか？

2 トラブルはどんなときに発生しますか？

□常に発生する

□ある特定の動作を行うと発生する

（どのような操作をすると発生するか、記入してください）

□不定期

3 トラブルが発生したときに画面にエラーメッセージなどは表示されましたか？表示される場合はその内容を印刷して別紙として添付するか、ここに記入してください。

4 その他、気づいたことがあればお知らせください。

ネットワーク構成図

本製品、パソコン、モデム（コンバータ）、スプリッタ（分配器）、ハブ、ケーブル（UTPケーブル、光ケーブル、CATVケーブルなど）などとの詳しい接続環境を記入してください。